



2026年4月17日

北陸地域のインバウンドを巡る 現状整理と若干の視座

日本銀行金沢支店
小林 尚誠*

* 現・金融機構局

本件に関するお問い合わせは、日本銀行金沢支店営業課（電話 076-223-9591）までお願いいたします。

本ペーパーは日本銀行金沢支店のホームページ（<https://www3.boj.or.jp/kanazawa/>）でもご覧いただけます。

本稿の内容について、商用目的で転載・複製を行う場合は、予め日本銀行金沢支店までご相談ください。転載・複製を行う場合は、出所を明記してください。

なお、本稿の内容と意見は筆者個人に属するものであり、日本銀行の公式見解を示すものではありません。

【要旨】

- 北陸では、コロナ禍後の世界的な旅行需要の回復等によりインバウンド需要が増加し、外国人延べ宿泊者数はコロナ禍前比2倍弱を達成している。ただし、日本人も含めた延べ宿泊者全体に占める外国人比率が2割弱とそれ程高くなく、外国人旅行者一人当たりの消費単価も低い点を鑑みれば、今後もインバウンド需要を一段と掘り起こす余地は大きいとみられる。
- この点、日本政府は、2030年までに年間の訪日外国人旅行者数（インバウンド客数）を6,000万人、同旅行消費額を15兆円に引き上げる目標を掲げている。これを各都道府県の人口規模比率や経済規模比率に応じて割り振ると、北陸は外国人旅行者数355万人、同消費額3,308億円の目標となるが、2025年の実績と比較して、外国人旅行者数は▲221万人、同消費額は▲2,677億円の乖離がある。
- この乖離を2030年までにどの程度埋めることができるか、幾つかのある程度現実的なペースで伸びた場合のシナリオを示すと、石川県は目標を達成する可能性が高い一方、富山県と福井県については、人数・金額ともに目標の達成にはかなりの努力を要する結果となった。北陸全体としては、各県での誘客を可能な限り進めつつ、3県連携して各種取り組みを有機的に結び付け、北陸での滞在日数・消費額を伸ばす必要がある。
- また、各種統計やアンケートのコメントデータ等を分析すると、北陸は、外国人旅行者全体の消費額や平均宿泊日数の全国平均対比でみた低さや、名産品等の認知度合いの低さ、多言語対応等の課題が浮かび上がる。こうした点を改善するためには、宿泊施設や交通インフラの整備、多言語案内やSNS等を活用した情宣の強化など、対応すべき事柄は多い。また、観光資源の高付加価値化や、石川県（金沢市）を中心としたオーバーツーリズムへの配慮と観光資源の持続可能な活用も求められている。足もと、こうした課題に対応するため、官民双方で活発な取り組みがなされており、既に一部は実を結んでいるが、今後さらなる発展を期待したい。
- 北陸地域は食文化や伝統文化、自然美等の「北陸ならではの」のものが数多く存在している。これらを活かすとともに、外国人旅行者のニーズに適切に対応し、北陸を面（3県全体）で捉えて、シナジー効果を高め、その魅力を世界に効果的に発信すれば、北陸はインバウンド観光地としての地位をより確固たるものにできるのではないか。そして、観光を重要な柱として地域経済全体が持続可能な成長を続けていくことを期待したい。

1. 問題意識

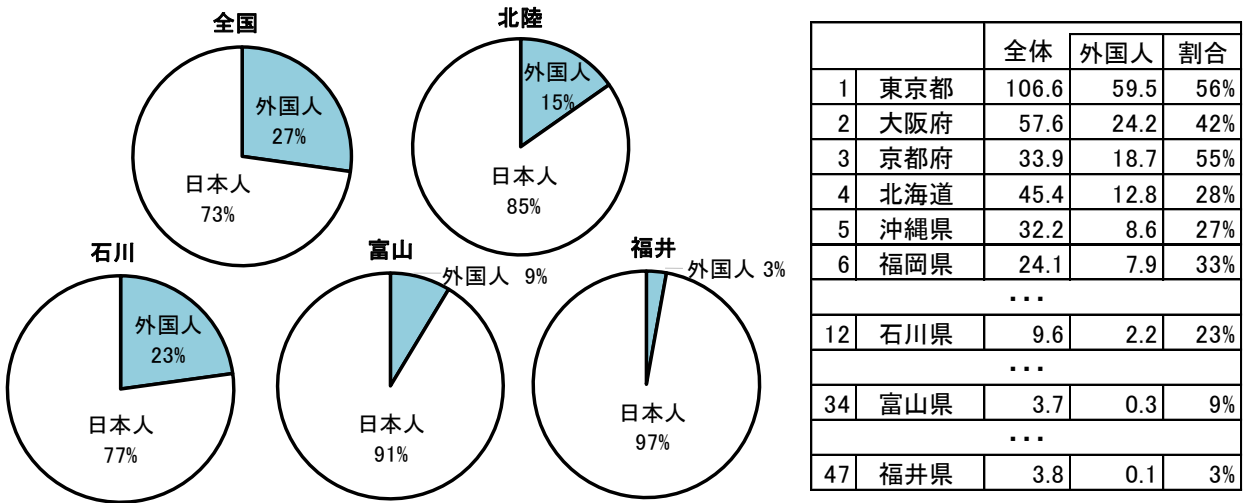
- 日本政府は、2030年までに年間の訪日外国人旅行者数（インバウンド客数）を6,000万人、同旅行消費額を15兆円に引き上げる目標を掲げている。政府は、基本的な戦略として、①高付加価値化、②地方誘客の促進、③持続可能な観光を設定し、各都道府県ではそれを踏まえて、官民挙げて訪日客の誘客に取り組んでいる。2025年には人数で約4,270万人、消費額で約9.5兆円を達成しており、残り5年の内に人数は年1,730万人、消費額は同5.5兆円さらに伸ばす必要がある。
- この間、北陸でも、コロナ禍後の世界的な旅行需要の回復や円安、ビザ要件の緩和等を背景に、インバウンド需要は増加し、外国人延べ宿泊者数はコロナ禍前（2019年）比2倍弱を達成している。もっとも、観光客に占める外国人比率は2割弱（石川県約2割、富山県、福井県は1割未満）とそれ程高くなく、外国人旅行者一人当たりの消費単価も低い（全国平均8.1万円に対し、石川県5.0万円、富山県4.0万円、福井県4.3万円）。こうした点を鑑みれば、インバウンド需要を一段と掘り起こし、供給面の充実を図ることで、北陸経済の発展に寄与する余地は大きいとみられる。
- そこで、本稿では、インバウンドを巡る北陸の動向について、近年の特徴を整理しつつ、目標達成に向けて、幾つかのある程度現実的なペースで外国人旅行者数および同消費額が伸びた場合の量的な姿を示す。そのうえで、目標に近づけていくためのインフラやコンテンツ等の質的側面を確認するとともに、行政や民間の取り組み事例を紹介する。

2. 北陸におけるインバウンドの特徴

（1）外国人延べ宿泊者数

- 北陸の観光業に占めるインバウンドの動向について、日本人も含めた延べ宿泊者数全体に占める外国人の割合をみると、15%（2025年：石川23%、富山9%、福井3%）に止まる。これは東京の56%や京都の55%、大阪の42%、福岡の33%、北海道の28%と比べて小さく、全国平均の27%にも及ばない【図表1】。

【図表 1】 各県・地域における外国人延べ宿泊者割合



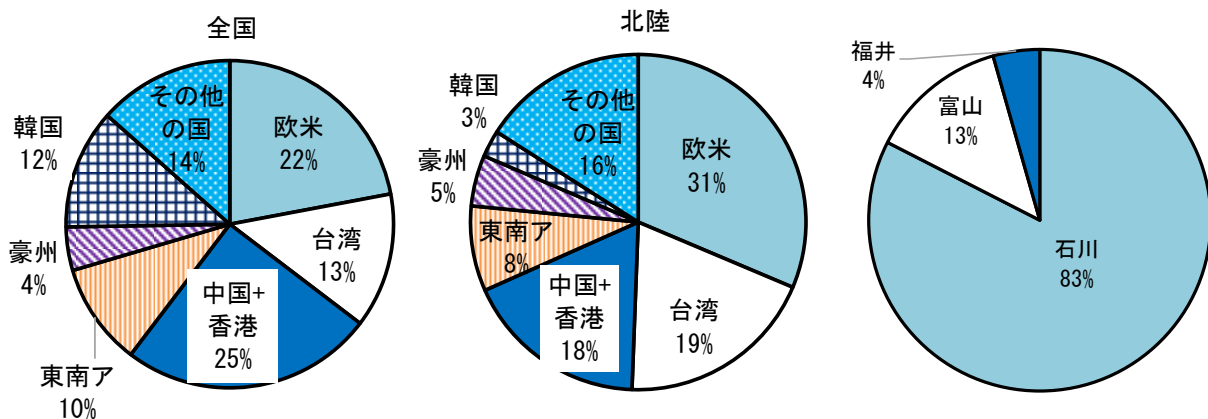
(注) 右表は外国人延べ宿泊者数の多い順に整理。宿泊人数は 100 万人泊単位。
 (出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2025 年)

(イ) 宿泊者の国籍別動向

- 外国人宿泊者の国籍をみると、全国では、一番多いのは中国・香港で 25%、次いで欧米 22%、台湾 13%、韓国 12% の順。一方、北陸で一番多いのは、欧米で 31%、次いで台湾 19%、中国・香港 18%、東南アジア 8%、豪州 5% の順。全国対比でみて、北陸を訪問する外国人の国籍は、欧米の比率が高いことが分かる【図表 2-1】。
- また、北陸における外国人宿泊者数の県別割合は、石川県が 83%、富山県 13%、福井県 4% と石川県に宿泊する割合が非常に高い【図表 2-2】。

【図表 2-1】 外国人延べ宿泊者数の国籍別割合

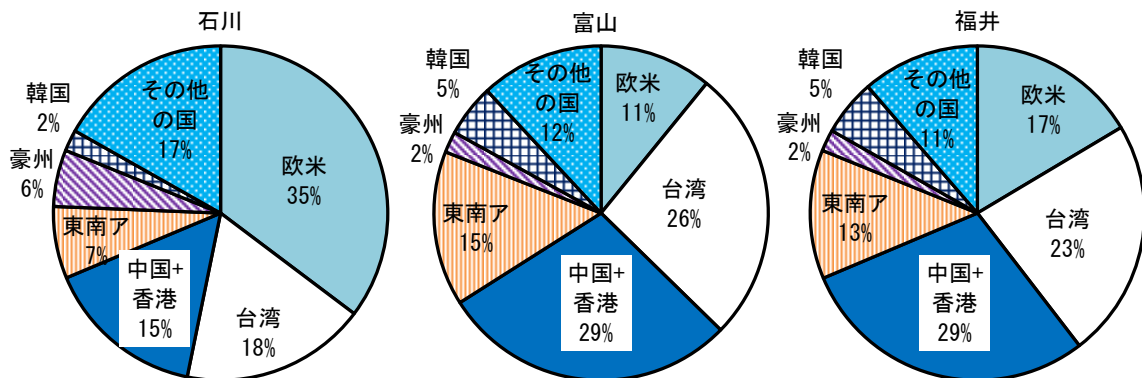
【図表 2-2】 外国人延べ宿泊者の県別割合



(注) 図表 2-1 の欧米には、アメリカ・イギリス・イタリア・カナダ・スペイン・ドイツ・フランスを含む。東南アには、インドネシア・シンガポール・タイ・フィリピン・ベトナム・マレーシアを含む。以下同じ。
 (出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2025 年)

- 各県別に外国人宿泊者の国籍をみると、石川県で一番多いのは、欧米で 35%、次いで台湾 18%、中国・香港 15%、東南アジア 7%、豪州 6% の順。富山県では、中国・香港 29%、台湾 26%、東南アジア 15%、欧米 11% の順。福井県では、中国・香港 29%、台湾 23%、欧米 17%、東南アジア 13% の順。石川県では欧米の比率が高く、富山県と福井県では中国・香港の比率が高い【図表 3】。

【図表 3】外国人延べ宿泊者数の国籍別割合



(出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2025年)

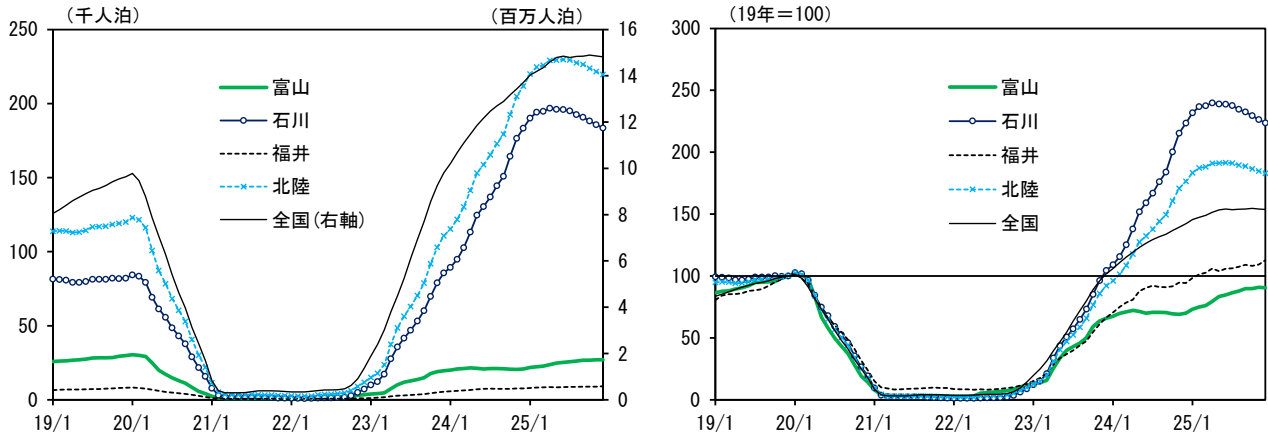
(ロ) 宿泊者数の推移

- 全国でも北陸でも、外国人延べ宿泊者数は、コロナ禍で大きく減少した後、世界的な旅行需要の高まりや為替円安の影響等もあり増加傾向。足もとの水準は、コロナ禍前(19年)対比、全国が約1.5倍で、北陸は2倍弱に達する【図表4】。
- 各県別にみると、石川県では、コロナ禍の収束以降、全国を大幅に上回るペースで増加した後、25年入り後に横ばいに転じたが、2025年12月時点でコロナ禍前の2倍強の水準に達している。また、国籍別にみると、欧米客のみならず、中国・香港客、台湾客、東南アジア客のいずれもコロナ禍前を超えている【図表5】。
- 富山県では、改善ペースは緩やかであり、2025年12月時点でコロナ禍前の水準を下回っている。国籍別にみると、台湾客は急速に改善したが、台北—富山定期便の運休が響きコロナ禍前の水準に復していない。一方、中国・香港客は大幅な増加を続けており、台湾も追い抜いている。この間、欧米客は、2025年1月頃から増加している【図表5】。2025年1月にニューヨーク・タイムズが富山市の観光施設等を紹介したこと等が功を奏したとみられる。
- 福井県でも、改善ペースは緩やかだが、2025年12月時点でコロナ禍前を若干上回っている。国籍別にみると、最も人数の多い中国・香港客が、コロナ禍前の水準をなお下回っている一方で、欧米客や東南アジア客がコロナ禍前の水準を上回り、増加ペースも高まっている【図表5】。

【図表 4】外国人延べ宿泊者数（12 カ月後方移動平均）

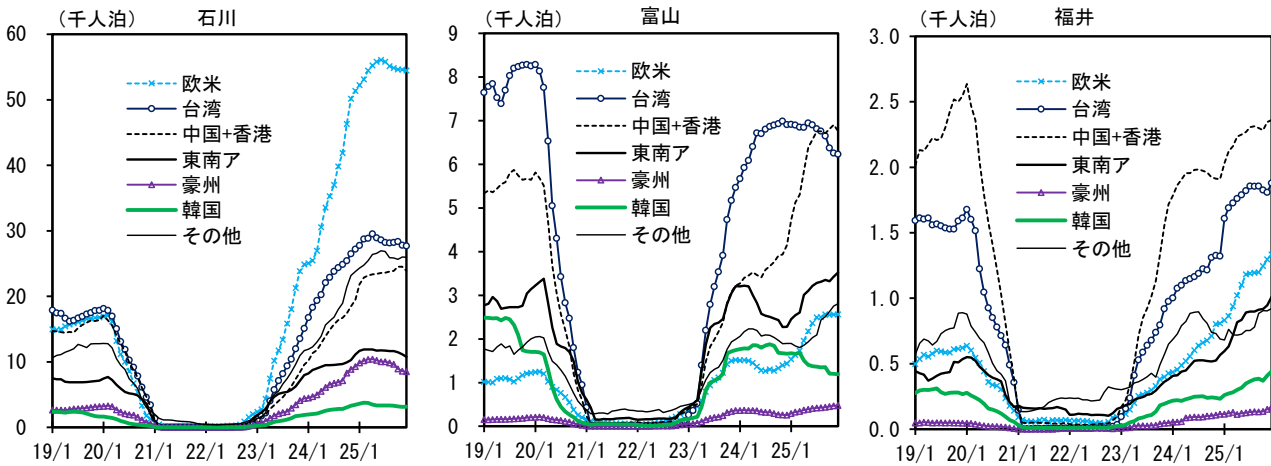
<実数>

<コロナ禍前との比較>



(注) 最新の数字は 2025 年 12 月。
 (出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

【図表 5】国籍別延べ宿泊者数の推移（12 カ月後方移動平均）



(出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」

(2) 外国人旅行者の宿泊日数

○ 外国人旅行者の平均宿泊日数は、全国平均が 2.3 日。これに対し、北陸 3 県については、石川県 1.9 日、富山県 1.4 日と短い。47 都道府県別ランキングで見ると、石川県が 23 位、富山県が 35 位に止まっている。福井県についても、特殊要因（【図表 6】の注）を除くと、平均宿泊日数 1.5 日、ランキング 32 位に止まる【図表 6】。

○ 国籍別の動向をみると、全国・北陸いずれにおいても、欧米客の宿泊日数が中国・香港客や台湾客の宿泊日数より長い点は共通ながら、地域別（欧米、アジア、豪州客別）にみると、韓国等一部の地域を除き、外国人旅行者の多くは、北陸 3 県には、全国平均より短い日数しか宿泊していない【図表 6】。

【図表 6】 国籍別平均宿泊日数

	石川県	富山県	福井県	全国	(福井県)
全国籍	1.9	1.4	2.3	2.3	(1.5)
欧米	2.0	2.4	1.7	2.9	-
台湾	1.4	1.1	1.4	2.2	-
中国+香港	1.9	1.5	1.7	2.0	-
東南ア	1.8	1.9	8.2	2.3	(1.8)
韓国	2.1	1.6	2.9	2.0	-
豪州	2.1	2.0	1.1	3.0	-
その他	2.0	3.4	1.5	2.8	-

(泊)

都道府県別平均泊数		
1	北海道	4.9
2	東京都	4.7
3	沖縄県	4.0
4	大阪府	3.2
5	福岡県	3.0
...		
13	福井県	2.3
...		
23	石川県	1.9
...		
(32)	福井県	1.5)
...		
35	富山県	1.4
...		

(注) 全国系列は、各都道府県における平均宿泊数を回答数で加重平均して算出。ビジネス目的を除く、観光・レジャー目的の項目を集計。
表中、グレーの箇所は、福井県にて149泊したインドネシア国籍の訪問者1名を除いて加重平均した宿泊日数、およびその都道府県順位。
(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」(2025年)、日本銀行金沢支店

(3) 人口一人当たり外国人旅行者数

○ 全国の人一人当たり外国人延べ宿泊者数は、1.43人。北陸各県は、石川県が2.00人と全国比高い一方で、富山県と福井県は各々0.32人、0.14人と低い状況【図表7】。当該数字は、オーバーツーリズムの程度をみるうえで参考になるものだが、47都道府県ランキングで見ると、石川県は7位、富山県32位、福井県44位となる。上位5位までは京都府、沖縄県、東京都、山梨県、大阪府であることを勘案すると、石川県ではオーバーツーリズムの程度が相応に高まっている可能性がある。

○ 同様の視点で、全国の人一人当たり外国人訪問者数は、0.85人。北陸各県は、石川県が0.80人と全国並みである一方で、富山県と福井県は各々0.36人と0.11人という状況【図表7】。47都道府県ランキングで見ると、石川県は10位、富山県22位、福井県41位となる。当該指標を用いても、石川県では、オーバーツーリズムの程度が相応に高まっている可能性がある。

【図表 7】 人口一人当たり外国人延べ宿泊者数・訪問者数

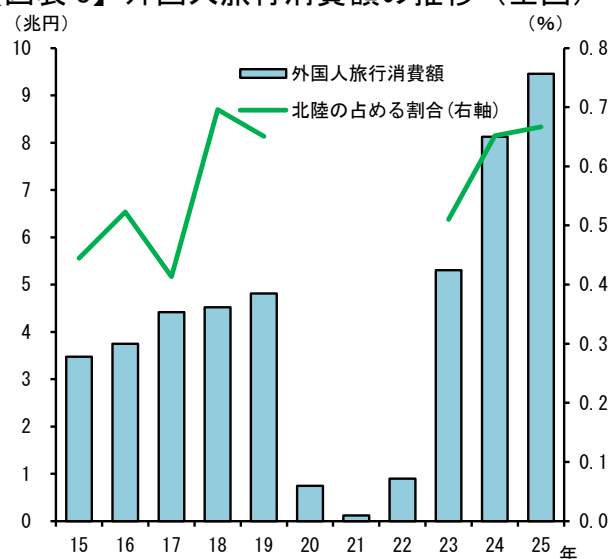
(人)			(人)		
一人当たり宿泊者数			一人当たり訪問者数		
1	京都府	7.43	1	京都府	4.85
2	沖縄県	5.92	2	山梨県	4.21
3	東京都	4.20	3	奈良県	2.88
4	山梨県	3.38	4	千葉県	2.31
5	大阪府	2.76	5	大阪府	1.94
...			...		
7	石川県	2.00	10	石川県	0.80
...			...		
32	富山県	0.32	22	富山県	0.36
...			...		
44	福井県	0.14	41	福井県	0.11
...			...		
全国平均		1.43	全国平均		0.85

(注) 全国平均は47都道府県の延べ宿泊者数ないし訪問者数を全て足し上げたものを人口で除して算出。
(出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2025年)、「インバウンド消費動向調査」(2025年)、総務省「人口推計」

(4) 外国人旅行者の消費額

- 外国人旅行者の旅行消費額は、過去10年で着実に伸び、2025年は約9.5兆円。このうち、北陸地域が占める割合は、数字が取れる直近数年間では0.4-0.7%で推移しており、2025年時点では0.67%となっている【図表8】。
- 外国人旅行者一人当たりの消費単価をみると、全国平均は8.1万円。石川県は5.0万円、富山県が4.0万円、福井県が4.3万円と低い。47都道府県ランキングでみると、石川県が24位、富山県が36位、福井県が32位に止まる【図表9】。
- 項目別消費単価の動向をみると、北陸3県はいずれも、団体・パック参加費は全国平均対比遜色ないものの、宿泊費や飲食費、買物代が少ない状況【図表9】。

【図表8】外国人旅行消費額の推移（全国）



(注1) 北陸（石川・富山・福井）の占める割合は、2015-2017年は平均消費単価および回答数をもとに都道府県別消費額を試算し、北陸3県分を全国の消費額で除して算出。2018-2019年、2023-2025年は公表されている都道府県別消費額の北陸3県分を、全国の消費額で除して算出。2020-2022年は都道府県別計数が未公表のため欠損値。

(注2) 2020-2022年の外国人旅行消費額は観光庁による試算値。

(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」
(旧・訪日外国人消費動向調査<以下同じ>)、
日本銀行金沢支店

【図表9】項目別消費単価額

訪問地		消費単価 (万円/人)							
		費目別(7区分)							その他
		消費単価	団体・パック参加費	宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等サービス費	買物代	
1	東京都	15.7	0.8	6.0	3.2	0.4	0.5	4.8	0.0
2	北海道	15.0	1.7	5.4	3.3	0.3	0.7	3.7	0.0
3	沖縄県	12.6	0.6	4.0	2.8	1.3	0.6	3.3	0.0
4	福岡県	10.5	0.4	3.2	2.6	0.3	0.3	3.7	0.0
5	大阪府	9.8	0.8	2.9	2.0	0.2	0.5	3.3	0.0
...									
24	石川県	5.0	0.9	1.9	1.1	0.1	0.1	1.0	0.0
...									
32	福井県	4.3	0.3	1.8	1.3	0.2	0.1	0.6	0.0
...									
36	富山県	4.0	0.8	1.4	0.8	0.1	0.1	0.8	0.0
...									
全国平均		8.1	0.6	2.9	1.7	0.2	0.4	2.4	0.0

(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」(2025年)

○ なお、全国平均については、より詳細な品目別の消費単価の指数を確認することが可能【図表 10】。当該データによれば、以下の特徴がみられる。

(イ) 欧米豪客は、宿泊費や交通費の消費単価が全国籍対比高いのが特徴。また、滞在中は、娯楽等サービス（美術館・博物館、温泉等）への支出が旺盛な一方、買い物（靴・かばん・革製品、宝石・貴金属等）は控えめ。

(ロ) 台湾客は、宿泊費、飲食費、交通費、娯楽等サービス費のいずれも少ない。ただし、買物代のうち菓子類や医薬品には積極的に支出している。

(ハ) 中国・香港客は、買物代（酒類、化粧品・香水、医薬品、衣類、靴・かばん・革製品、電気製品、時計・フィルムカメラ、宝石・貴金属等）が多額。欧米客対比短い滞在期間の中で積極的に支出している。

【図表 10】 項目別購入者単価指数

(全国籍の消費単価=100)	欧米	台湾	中国+香港	東南アジア	豪州	韓国	その他
合計	153	76	106	102	164	47	146
宿泊費	176	69	88	126	174	43	171
飲食費	144	77	105	107	159	57	139
交通費	186	75	87	101	171	40	171
航空(日本国内移動のみ)	109	119	90	98	88	94	96
Japan Rail Pass	171	70	65	81	161	42	152
新幹線・鉄道・地下鉄・モノレール	187	69	82	100	171	35	172
バス	123	95	99	131	115	69	131
タクシー	129	78	113	98	104	51	128
レンタカー	159	82	121	123	112	56	200
船舶(日本国内移動のみ)	224	39	68	43	72	61	74
娯楽等サービス費	118	73	97	85	236	67	121
現地ツアー・観光ガイド	132	77	86	77	269	44	149
ゴルフ場・スポーツ施設利用料	66	41	106	114	179	135	48
テーマパーク	107	86	94	85	161	75	136
舞台・音楽鑑賞	54	99	130	84	58	110	56
スポーツ観戦	119	63	102	115	85	69	87
美術館・博物館・動植物園・水族館	136	71	82	87	142	58	140
温泉・温浴施設・エステ・リラクゼーション	141	75	133	101	102	64	83
マッサージ・医療費	73	44	141	329	120	117	48
展示会・コンベンション参加費	72	69	113	97	252	117	68
買物代	103	97	134	106	111	42	111
菓子類	100	110	111	133	100	62	111
酒類	123	88	112	114	125	83	98
生鮮農産物	111	66	82	288	128	42	122
その他食料品・飲料・たばこ	127	78	97	112	134	54	140
化粧品・香水	73	90	138	86	76	37	89
医薬品	60	127	126	127	84	51	55
健康グッズ・トイレタリー	56	104	118	86	40	54	84
衣類	96	83	127	83	100	64	112
靴・かばん・革製品	73	80	146	85	72	55	77
電気製品(デジタルカメラ/PC/家電等)	84	79	125	105	133	49	102
時計・フィルムカメラ	77	56	112	115	137	41	66
宝石・貴金属	46	132	187	164	16	77	31
民芸品・伝統工芸品	126	72	99	70	107	45	108
音楽・映像・ゲームなどソフトウェア	110	71	116	75	70	60	102

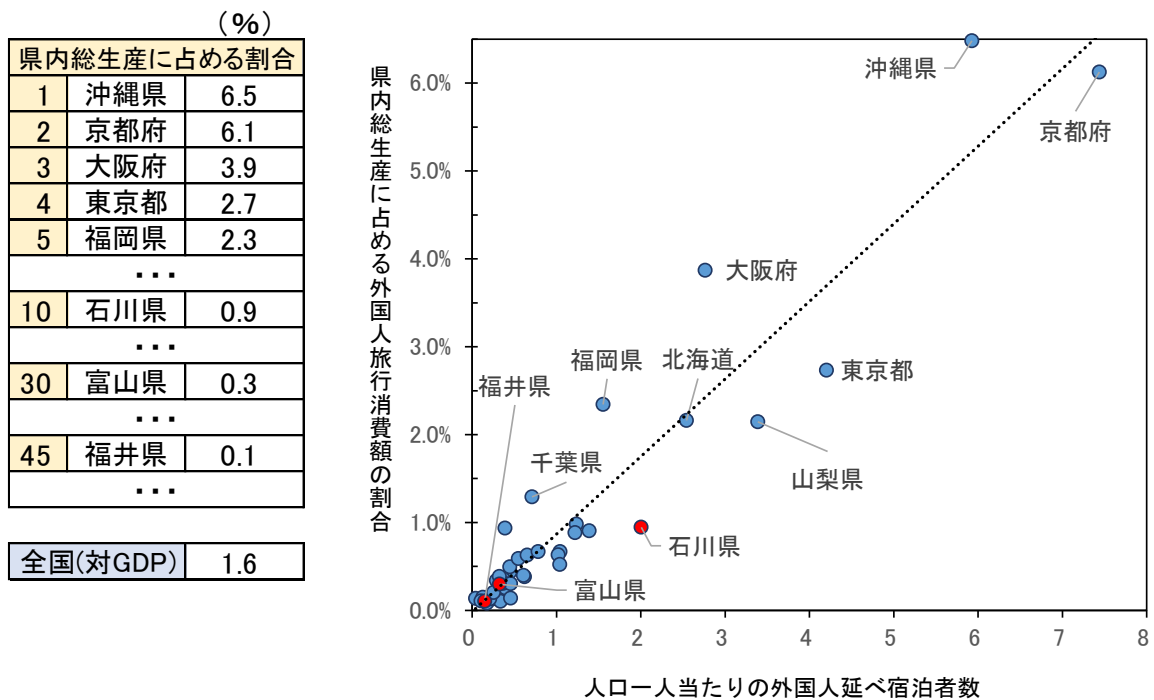
(注) 購入者単価は、当該商品・サービスを購入した一人当たりの平均単価。

(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」(2025年)

(5) 県内総生産に占める外国人旅行消費額

- 国内総生産に占める外国人旅行消費額の割合（2025年）は1.6%。一方、北陸3県の県内総生産に占める同割合は、石川県0.9%、富山県0.3%、福井県0.1%と、全国対比小規模【図表11】。また、47都道府県ランキングで見ると、石川県は10位、富山県30位、福井県45位。富山県と福井県の低さについては、外国人旅行者の延べ宿泊日数の短さや、外国人旅行者一人当たりの消費単価の低さ等が影響しているとみられる。
- なお、石川県においては、(3)で示したオーバーツーリズムの程度（人口一人当たりの外国人延べ宿泊者数）と、外国人旅行消費額の県内総生産への貢献度のバランスが良くない【図表11】。県内総生産への貢献度が相対的に高くない状況でオーバーツーリズムが相応に発生している可能性がある。

【図表11】 都道府県内総生産／人口に占めるインバウンド割合



(注) 県内総生産・国内総生産は2022年、人口は2024年、インバウンド消費額は2025年の値。
散布図中の破線は、プロットの線形近似。

(出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2025年)、「インバウンド消費動向調査」(2025年)、内閣府「国民経済計算」、「県民経済計算」、総務省「人口推計」

(6) 外国人旅行者の来日目的

○ 上記の各種データから導かれるインバウンドの特徴に加え、各種アンケート等から、外国人旅行者の観光目的についても、以下で整理【図表 12】。

○ 訪日目的については、インバウンド消費動向調査における全国レベルでのアンケート（訪日前に最も期待していたこと）の回答を確認することが可能¹。当該アンケートの結果をみると、欧米客は「日本食を食べること」が4割強と突出して高く、台湾客や中国・香港客の2割強を大きく上回っている。2位以下には「日本の歴史・伝統文化体験」（1割強）や「自然・景勝地観光」（1割程度）が続いている。一方、台湾客や中国・香港客については、「日本食を食べること」、「自然・景勝地観光」がそれぞれ2割程度、「ショッピング」、「テーマパーク」が1割前後を占めるなど、日本への観光を様々な角度から楽しもうとしている様子が窺える。

【図表 12】 訪日前に最も期待していたこと

	全国籍		欧米		台湾		中国・香港	
1位	日本食を食べること	34.1%	日本食を食べること	43.9%	日本食を食べること	20.6%	日本食を食べること	23.8%
2位	自然・景勝地観光	13.8%	日本の歴史・伝統文化体験	11.4%	自然・景勝地観光	18.2%	自然・景勝地観光	17.1%
3位	ショッピング	8.3%	自然・景勝地観光	10.7%	ショッピング	10.3%	ショッピング	12.5%
4位	日本の歴史・伝統文化体験	6.2%	日本の日常生活体験	4.6%	テーマパーク	10.0%	テーマパーク	8.6%
5位	テーマパーク	6.1%	ショッピング	3.3%	四季の体感	7.9%	温泉入浴	5.8%
6位	四季の体感	4.6%	四季の体感	3.0%	温泉入浴	5.8%	四季の体感	5.5%
7位	温泉入浴	4.0%	テーマパーク	2.9%	繁華街の街歩き	4.9%	繁華街の街歩き	4.7%
8位	日本の日常生活体験	3.2%	美術館・水族館等	2.7%	日本の歴史・伝統文化体験	3.4%	舞台・音楽鑑賞	3.7%
9位	繁華街の街歩き	2.9%	温泉入浴	2.3%	美術館・水族館等	3.1%	美術館・水族館等	3.1%
10位	美術館・水族館等	2.7%	スキー・スノーボード	2.2%	スキー・スノーボード	2.6%	日本のポップカルチャー	2.9%
11位	スキー・スノーボード	2.2%	日本のポップカルチャー	2.0%	日本の日常生活体験	2.4%	日本の歴史・伝統文化体験	2.8%
12位	日本のポップカルチャー	2.0%	繁華街の街歩き	1.6%	舞台・音楽鑑賞	2.3%	日本の日常生活体験	2.1%
13位	舞台・音楽鑑賞	1.7%	旅館に宿泊	1.6%	自然体験ツアー・農山漁村体験	2.1%	スキー・スノーボード	1.8%
14位	自然体験ツアー・農山漁村体験	1.4%	自然体験ツアー・農山漁村体験	1.4%	日本のポップカルチャー	1.7%	映画・アニメ縁の地を訪問	1.4%
15位	日本の酒を飲むこと	1.3%	舞台・音楽鑑賞	1.0%	日本の酒を飲むこと	1.5%	旅館に宿泊	1.1%

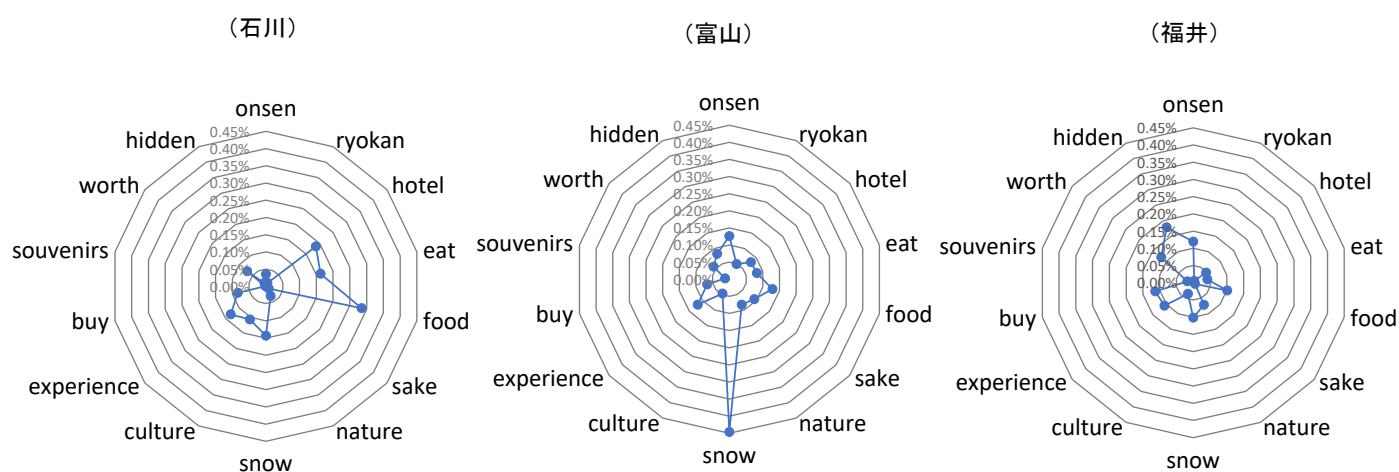
	東南アジア		豪州		韓国		その他	
1位	日本食を食べること	31.8%	日本食を食べること	29.1%	日本食を食べること	43.2%	日本食を食べること	32.9%
2位	自然・景勝地観光	16.0%	自然・景勝地観光	13.6%	ショッピング	10.4%	自然・景勝地観光	15.5%
3位	ショッピング	10.6%	スキー・スノーボード	12.9%	温泉入浴	7.9%	日本の歴史・伝統文化体験	11.6%
4位	テーマパーク	7.1%	日本の歴史・伝統文化体験	8.2%	自然・景勝地観光	7.8%	ショッピング	5.6%
5位	四季の体感	6.5%	テーマパーク	5.5%	テーマパーク	6.7%	日本の日常生活体験	5.6%
6位	日本の歴史・伝統文化体験	4.1%	ショッピング	5.1%	日本の酒を飲むこと	4.7%	四季の体感	4.7%
7位	日本の日常生活体験	3.3%	日本の日常生活体験	3.3%	繁華街の街歩き	3.0%	テーマパーク	4.1%
8位	繁華街の街歩き	2.8%	四季の体感	3.2%	美術館・水族館等	2.4%	美術館・水族館等	3.8%
9位	温泉入浴	2.8%	美術館・水族館等	2.9%	旅館に宿泊	1.8%	温泉入浴	2.3%
10位	美術館・水族館等	2.2%	温泉入浴	2.5%	日本のポップカルチャー	1.8%	繁華街の街歩き	2.2%
11位	スキー・スノーボード	2.0%	自然体験ツアー・農山漁村体験	2.0%	その他スポーツ(ゴルフ等)	1.7%	自然体験ツアー・農山漁村体験	2.0%
12位	自然体験ツアー・農山漁村体験	2.0%	その他スポーツ(ゴルフ等)	1.5%	日本の日常生活体験	1.7%	日本のポップカルチャー	1.6%
13位	日本のポップカルチャー	1.2%	スポーツ観戦	1.4%	日本の歴史・伝統文化体験	1.6%	スキー・スノーボード	1.4%
14位	舞台・音楽鑑賞	1.2%	日本のポップカルチャー	1.4%	舞台・音楽鑑賞	1.4%	旅館に宿泊	1.3%
15位	旅館に宿泊	1.1%	旅館に宿泊	0.9%	四季の体感	1.2%	日本の酒を飲むこと	1.1%

(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」(2024年)

¹ 都道府県別には当該設問の結果は公表されていないほか、2025年の同調査では当該項目の公表がないため、2024年の調査を参考にしている。

- 北陸各県への旅行の目的については、動画共有サイト (Youtube) のコメントに登場する単語の分析から傾向を知ることが可能 (具体的な分析手法については、BOX 1 参照)。特定の単語²について登場頻度をみた分析結果は以下の通り【図表 13】。
- 石川県については、「food(食べ物)」等の日本食に関する単語と、「culture (文化)」、「experience (体験)」といった日本文化や体験に関する単語が頻繁に登場している。一方、買い物に関する単語は少ない。「kanazawa(金沢)」と共起される頻度が高かった特徴的な単語としては、「castle (金沢城)」が存在するほか、「kyoto (京都)」との共起も頻繁に存在。
- 富山県については、「snow (雪)」等の自然に関する単語の登場割合が高い。日本食に関する単語の登場割合も高く、「sake (酒)」は頻繁に登場している。他には、「tateyama (立山)」、「kurobe (黒部)」、「route (ルート)」等があり、立山黒部アルペンルート関連の単語が目立つ。
- 福井県については、各単語登場割合が低いものの、「hidden (隠れた)」という単語が石川・富山県対比多く登場しており、「隠れた〇〇」というコメントがなされている。他には、「dinosaur (恐竜)」、「museum (美術館)」、「eihei ji (永平寺)」、「temple (寺)」、「echizen (越前)」等、観光地関連の単語が目立つ。
- なお、各県とも、「souvenirs (土産)」の登場割合は低く、土産物等に関する言及が少ない。

【図表 13】 単語別登場割合



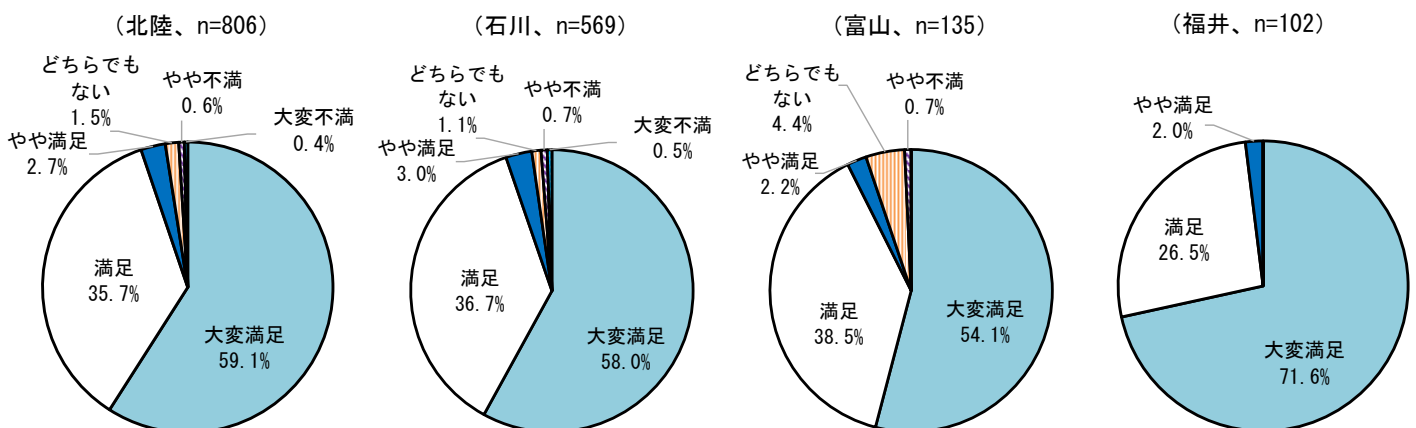
(出所) 日本銀行金沢支店

² 訪日前に最も期待していたこと(図表 12)をもとに、①温泉や宿に関する onsen, ryokan, hotel、②日本食に関する eat, food, sake、③自然に関する nature, snow、④文化・体験に関する culture, experience、⑤買い物に関する buy, souvenirs を抽出した。そのほか、⑥旅行先を検討する際に用いられ得る worth (価値のある), hidden (隠れた <+place・gem で名所・名物>) を採用。

(7) 外国人旅行者の観光後の感想

- 北陸インバウンド観光DX・データコンソーシアムが実施したアンケート調査結果（自由記述）の各単語から、外国人旅行者の観光後の感想を分析可能。結果は以下の通り【図表14、15】。
- 石川県では、利用した施設の満足度は高く、理由をみると、兼六園（garden）等が美しい（beautiful）点や、武家屋敷（samurai residence）等がしっかり保存（well preserved, maintained）されている点等が指摘されている。また、武士の生活が興味深い（interesting）等のコメントもみられた。不満や改善点については、文化や展示内容を理解するための英語案内（english, signs, panels, explanations）を求める声が多いほか、寒さ（cold）を指摘する声も存在。
- 富山県でも、利用した施設の満足度は高い。理由をみると、ホテル等が過ごしやすい（comfortable）点や、食事が美味しい（delicious）点、従業員（staff）の接客が良い点等が挙げられている。一方で、不満や改善点については、天気・気温（rain, cold, weather）や施設の古さ（dated）を指摘する声が存在。
- 福井県でも、満足度は高く、理由をみると、平穏さ（peaceful, calm）や綺麗さ（clean, organized）等が挙げられている。一方、不満等については、英語での説明（english, explanation）を求める声や、見学ルートの提案（course, route, suggestion）を期待する声が存在。
- 観光後の感想については、不満内容や改善を希望するコメントを踏まえ、着実に見直していくことが必要となる。

【図表14】 利用した施設の満足度



(出所) ©TIFDATA

【図表 15】 アンケートで不満（要改善）として登場頻度が高い単語

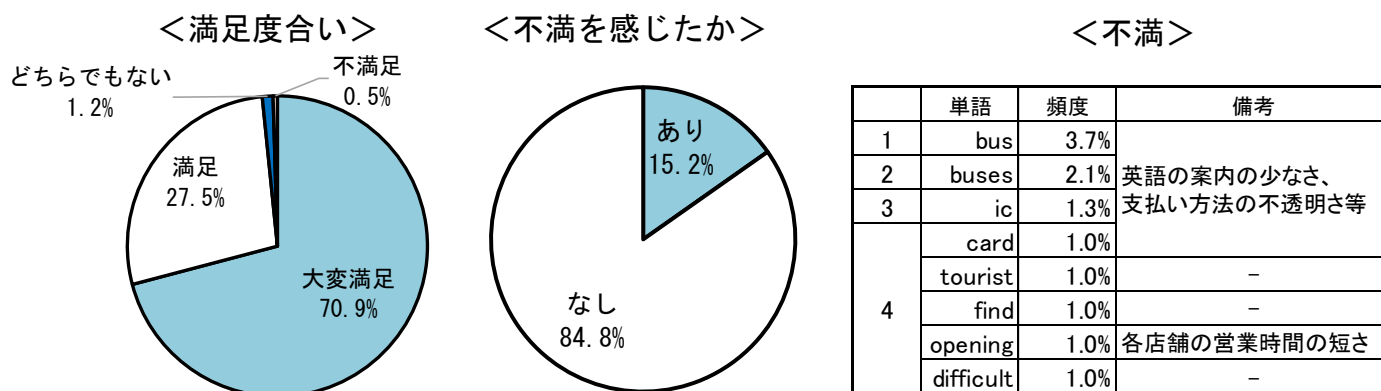
(石川)		(富山)		(福井)	
単語(不満)	頻度	単語(不満)	頻度	単語(不満)	頻度
english	8.0%	rain	10%	english	11.1%
information	3.2%	cold	10%	explanation	5.6%
signs	2.4%	weather	10%	course	5.6%
cold	1.6%	facilities	10%	route	5.6%
panels	1.6%	dated	10%	suggestion	5.6%
explanations	1.6%	environment	10%	bus	5.6%
		monotonous	10%	indication	5.6%

(注) 利用した施設の訪問満足度の回答理由のうち、不満・要改善について言及しているものを抽出し【BOX1】②の手法を用いて形態素解析を実施。そのうち、不満・要改善に直結する単語を抜粋し記載している。英語以外の言語の場合は Google 翻訳を用いて英語に変換したうえで集計。

(出所) ©TIFDATA、日本銀行金沢支店

- なお、石川県については、県によるインバウンドへのアンケート調査の結果が公表されている【図表 16】。上記と同様に分析すると、全体的に満足度が高い様子が窺われる。具体的には、「beautiful」や「people」、「friendly」の登場頻度が高く、自然や街並みの美しさや、観光産業従事者や地域住民の親しみやすさが高く評価されている。一方、不満な点を見ると、「bus (バス)」の登場頻度が最も多く、多言語案内の少なさや電子決済対応の不透明さがその要因として挙げられている。また、「opening (営業中)」の登場頻度も高く、各店舗の営業時間の短さが不満につながっている。

【図表 16】 満足度合いおよび不満の有無・不満とされた単語



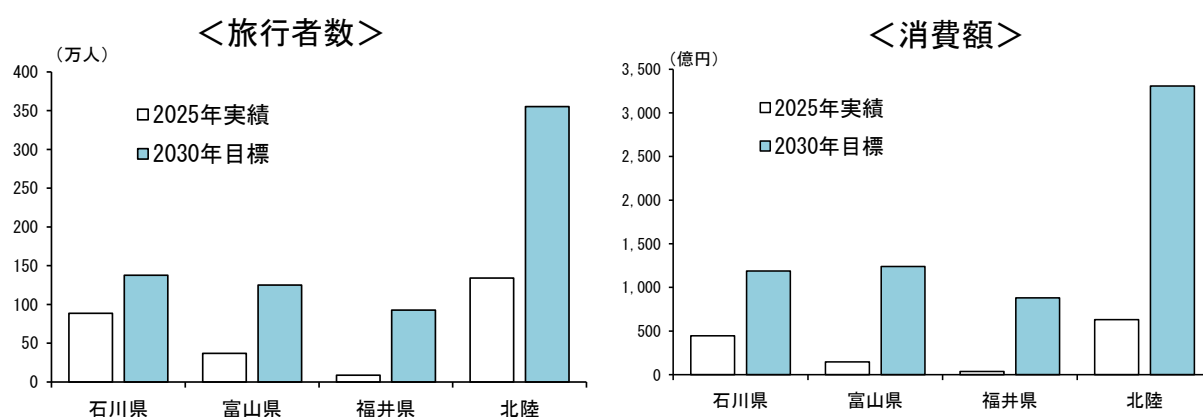
(注) <不満>については「不満を感じたか」の理由として公開されているコメントを使用し、【BOX1】②の手法を用いて形態素解析を実施した。使用しているデータは 2026 年 4 月 9 日時点。

(出所) Milli、日本銀行金沢支店

3. 政府目標達成へ向けた量的な姿とインフラ等質的側面

- 2030年までに年間の外国人旅行者数 6,000 万人、同消費額 15 兆円を達成する場合、これを各県への訪問率をもとに延べ旅行者数を推計したうえで、人口規模比率および経済規模比率に応じて割り振る³と、北陸は年間の外国人旅行者数 355 万人（石川県 137 万人、富山県 124 万人、福井県 92 万人）、同消費額 3,308 億円（石川県 1,187 億円、富山県 1,240 億円、福井県 879 億円）となる。北陸における 2025 年実績との乖離は、外国人旅行者数▲221 万人（石川県▲49 万人、富山県▲88 万人、福井県▲83 万人）、同消費額▲2,677 億円（石川県▲741 億円、富山県▲1,093 億円、福井県▲842 億円）となる【図表 17】。以下では、幾つかのある程度現実的なペースで外国人旅行者数および消費額が伸びた場合の量的な姿を示したうえで、目標に近づけていくためのインフラやコンテンツ等の質的側面を確認する。

【図表 17】 政府目標との差



(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」(2025年)、総務省、内閣府、JNTO、日本銀行金沢支店

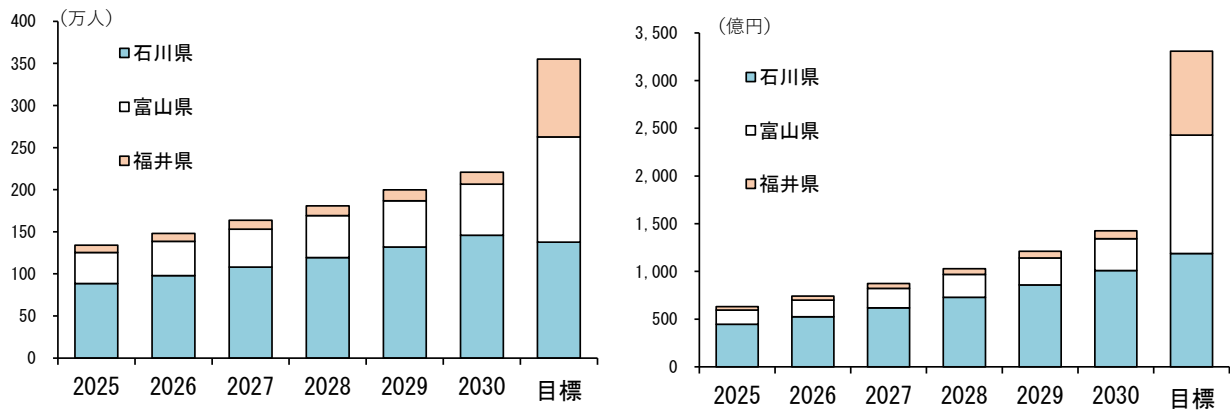
(1) 外国人旅行者数と同消費額の推計

- シナリオ①として、北陸3県の外国人旅行者数・同消費額が全国の過去5年間の平均伸び率⁴で伸びると仮定すると、外国人旅行者数は2030年に220万人（石川県145万人、富山県60万人、福井県14万人）で、消費額は同年に1,425億円（石川県1,008億円、富山県332億円、福井県83億円）。これは、目標人数・金額に▲134万人（石川県+8万人、富山県▲64万人、福井県▲78万人）、▲1,882億円（石川県▲178億円、富山県▲907億円、福井県▲796億円）足りない【図表 18】。

³ 旅行者数の2030年目標は、日本に入国した外国人旅行者のうち、どの程度が各都道府県を訪れたかを表す訪問率（インバウンド消費動向調査）を使用し延べ旅行者数を推計し、その値をもとに各都道府県の人口比率で案分したものを。消費額の2030年目標は、政府目標額を都道府県内総生産で案分したものを。

⁴ 日本における2018～2019年と2023～2025年（コロナ禍の2020～2022年を除く）の伸び率の平均（旅行者数+10.5%、消費額+17.7%）。ただし、2023年の伸び率は2019年対比。

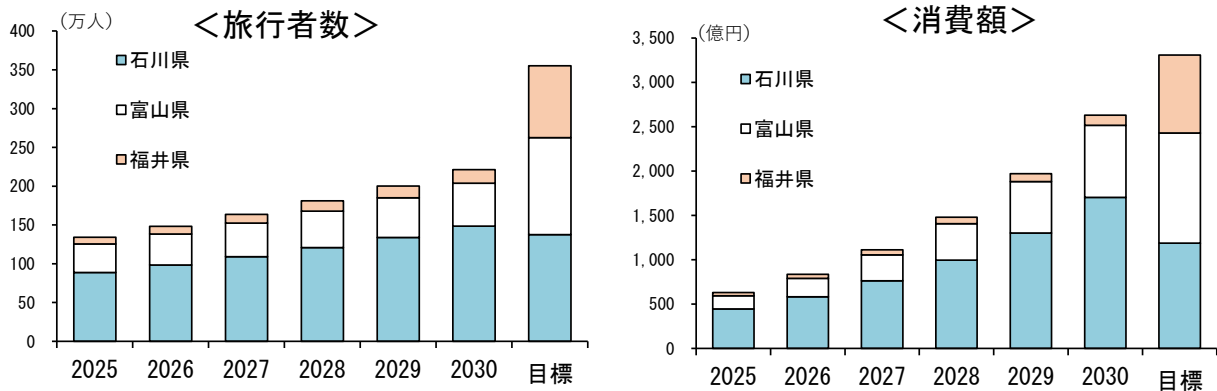
【図表 18】 シナリオ①（全国の過去5年間の平均の伸び率で増加）
 <旅行者数> <消費額>



（出所）観光庁「インバウンド消費動向調査」、総務省、内閣府、JNT0、日本銀行金沢支店

- シナリオ②として、北陸3県の外国人旅行者数・同消費額が北陸の過去5年間の平均伸び率⁵で伸びると仮定すると、外国人旅行者数は2030年に221万人（石川県148万人、富山県55万人、福井県17万人）で、消費額は同年に2,628億円（石川県1,702億円、富山県814億円、福井県112億円）。これは、目標人数・金額に▲133万人（石川県+10万人、富山県▲69万人、福井県▲75万人）、▲679億円（石川県+514億円、富山県▲426億円、福井県▲767億円）足りない【図表 19】。

【図表 19】 シナリオ②（北陸の過去5年間の平均の伸び率で増加）

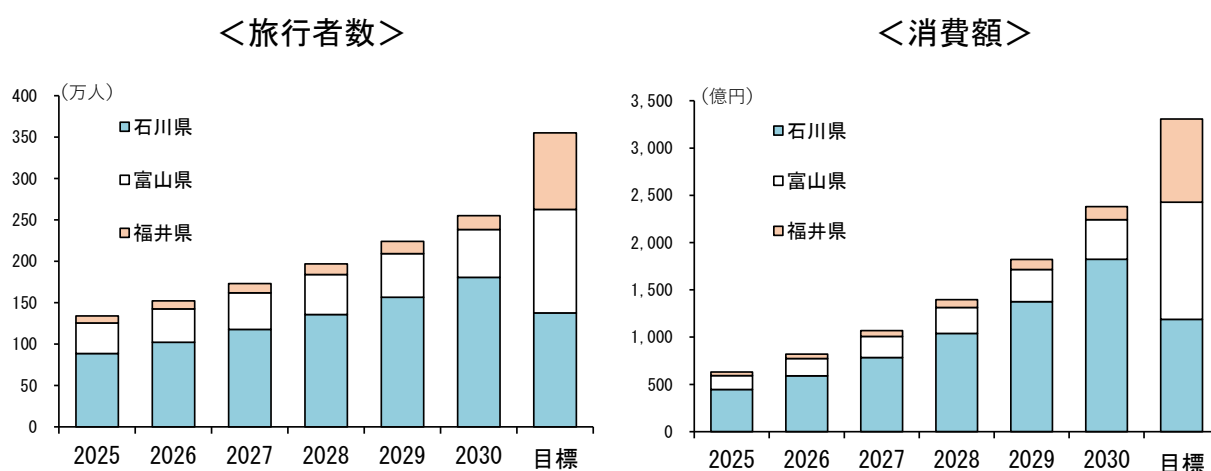


（出所）観光庁「インバウンド消費動向調査」、総務省、内閣府、JNT0、日本銀行金沢支店

⁵ 2018～2019年と2023～2025年（コロナ禍の2020～2022年を除く）の伸び率の平均。ただし、2023年の伸び率は2019年対比。当該統計の都道府県別計数の公表は2018年開始のため、2017年については、旅行者数は全国の訪問客数に訪問率を乗じて試算。消費額は調査回答数に平均消費単価を乗じたうえで、47都道府県分を足し上げた総消費額に占めるウェイトを得て、全国の消費額に適用して試算。石川県では旅行者数+10.9%、消費額+30.7%、富山県では旅行者数+8.5%、消費額+40.8%、福井県では旅行者数+15.1%、消費額+25.0%。

- シナリオ③として、北陸3県の外国人旅行者数・同消費額がコロナ禍後の3年間の平均伸び率⁶で伸びると仮定すると、外国人旅行者数は2030年に255万人（石川県180万人、富山県57万人、福井県16万人）で、消費額は同年に2,380億円（石川県1,823億円、富山県418億円、福井県139億円）。それでも、目標人数・金額になお▲100万人（石川県+42万人、富山県▲67万人、福井県▲75万人）、▲927億円（石川県+635億円、富山県▲822億円、福井県▲740億円）足りない【図表20】。

【図表20】シナリオ③（北陸のコロナ禍後3年間の平均の伸び率で増加）

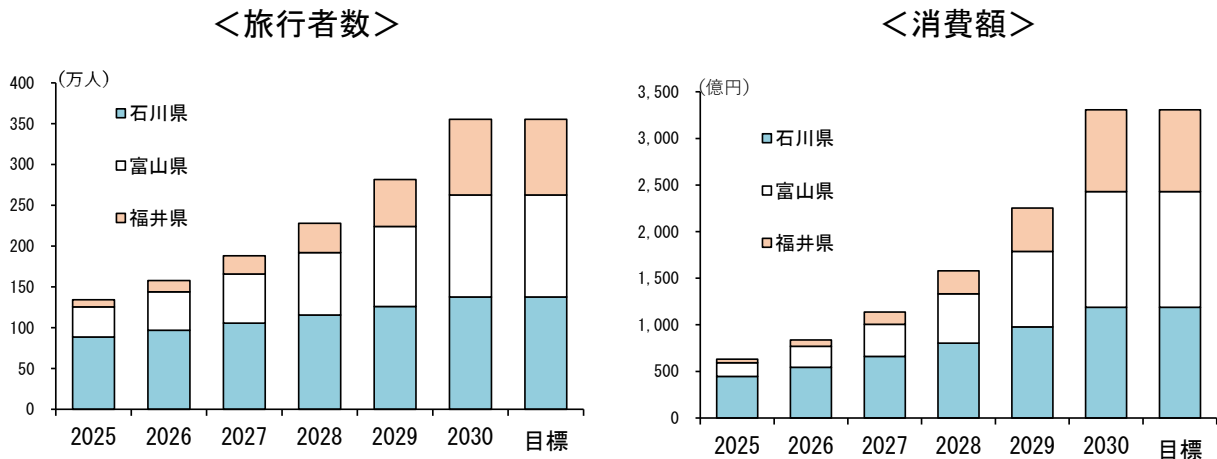


（出所）観光庁「インバウンド消費動向調査」、総務省、内閣府、JNTO、日本銀行金沢支店

- 石川県は、シナリオ②③の北陸地域としての伸び率で推移すれば、目標人数・金額とも達成できるが、富山県と福井県については、目標を達成するために相当の伸びが必要。シナリオ④として、目標達成可能な伸び率を計算すると、石川県は外国人旅行者数で年率+9.2%の伸び率、消費額で同+21.6%の伸び率が必要。一方、富山県では、外国人旅行者数で同+27.7%、消費額で同+53.2%、福井県では、外国人旅行者数で同+60.7%、消費額で同+88.5%必要【図表21】。北陸3県全体として目標を達成するのはハードルが高いことが分かる。特に、富山県と福井県については、人数・金額とも目標を達成するには、かなりの努力を要する。北陸全体としては、各県での誘客を可能な限り進めつつ、3県連携して各種取り組みを有機的に結び付け、北陸での滞在日数・消費額を伸ばす必要がある。

⁶ 2023～2025年の伸び率の平均。ただし2023年の伸び率は2019年対比。欠損値（2023年1～3月）は日本銀行金沢支店による試算値。石川県では旅行者数+15.3%、消費額+32.5%、富山県では旅行者数+9.4%、消費額+23.2%、福井県では旅行者数+14.2%、消費額+30.4%。

【図表 21】 シナリオ④（目標達成可能な伸び率で増加）



（出所）観光庁「インバウンド消費動向調査」、総務省、内閣府、JNTO、日本銀行金沢支店

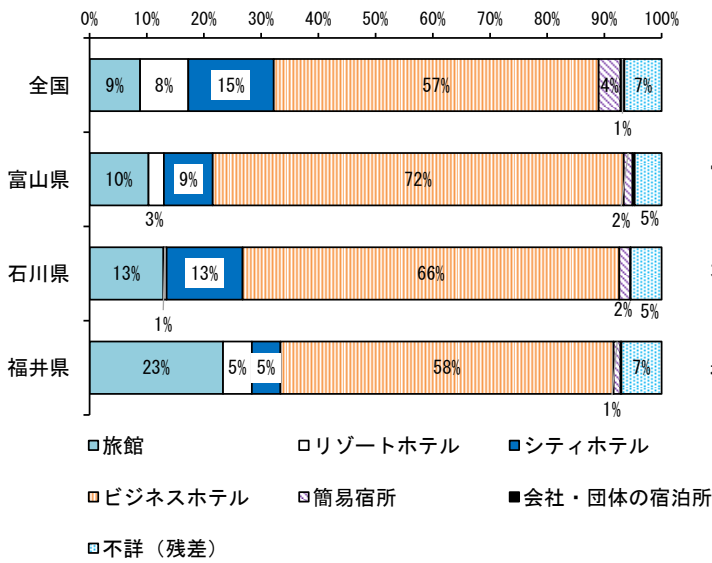
（２）目標達成に必要なインフラやコンテンツ、情宣等

- 目標達成に向けて必要なインフラとコンテンツ、情宣、価格設定等が十分かどうかを次に確認していく。

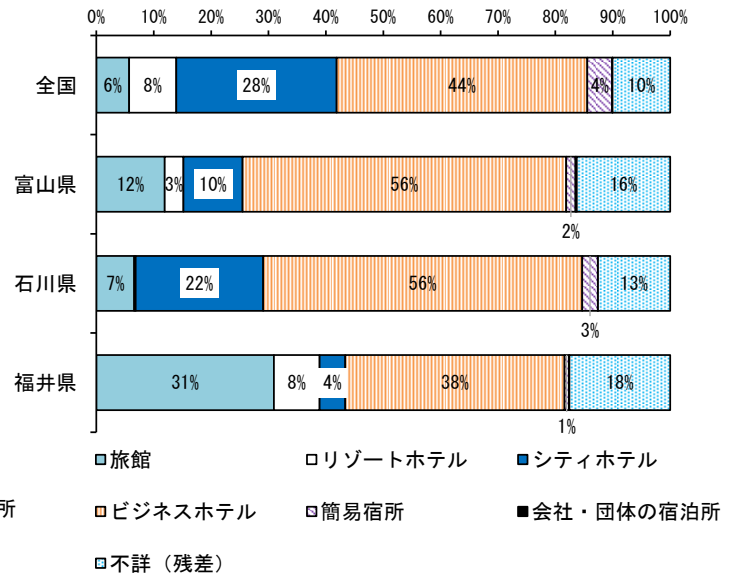
（イ）宿泊施設は十分か

- 宿泊旅行統計調査（2025年12月時点）によれば、北陸の宿泊施設数は2,309施設（石川県1,058施設、富山県429施設、福井県822施設）。また、1年間で利用可能な延べ客室数は約2,000万部屋（石川県1,014万部屋、富山県454万部屋、福井県516万部屋）。日本人旅行者も含めた客室稼働率は全体で54.5%（石川県58.2%、富山県55.3%、福井県46.5%）。日本人旅行者数がこれまでと同じで、外国人旅行者数のみが上記シナリオ④のペースで伸びた場合、稼働率は64.2%（石川県65.5%、富山県66.7%、福井県59.4%）になる計算。この程度であれば、全体としては外国人旅行者数の増加を吸収できる筋合い。もっとも、観光の繁忙期やエリアごとの入込の差異等を考慮すると、供給制約は発生し得る。実際、繁忙期には数か月前に予約が全て埋まる先や、客室に加え人手が不足し価格を調整して稼働率を抑制する先も存在。
- なお、客室数に関して施設タイプ別にみると、北陸は、リゾートホテルの割合が全国平均よりも低い【図表 22、23】。今後の需要動向にもよるが、中級層あるいは富裕層の取り込みを強化していくうえでは、リゾートホテルも含めて、該当する客層向けの客室数を増やしていくことが有効とみられる。

【図表 22】 客室数割合



【図表 23】 外国人延べ宿泊者使用客室割合



(出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2025 年)

(出所) 観光庁「宿泊旅行統計調査」(2025 年)

(ロ) 交通インフラは十分か

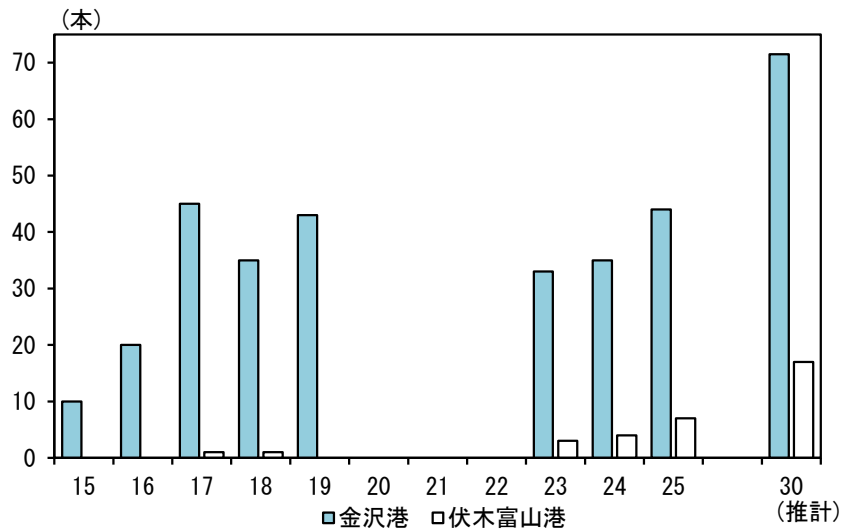
- 新幹線については、2024 年 3 月の北陸新幹線敦賀延伸により、東京駅から福井駅まで 3 時間弱で行けるようになり、いわゆる新ゴールデンルート⁷の活用が促進された（外国人旅行者の足もとの観光動線については、【BOX2】参照）。北陸 3 県も 1 時間以内で結ばれるようになり、北陸を周遊するインセンティブを高めることに貢献している。運転本数の調整も、繁忙度の高さに応じて行われている。ただし、外国人及び日本人の旅行者が集中した場合の乗車券売り場（特に金沢駅）の混雑解消に向けては、何等かの対応が必要とみられる。
- 高速バスについては、北陸を訪れる外国人旅行者の約 2 割～ 5 割が中部国際空港を利用しており、そこから岐阜（白川郷）を通過して石川・富山に入るルートの需要が高い（外国人旅行者の旅行中の交通手段については、【BOX3】参照）。今後、外国人旅行者数が増加した場合、当該ルートを走る高速バスの本数増加が期待される。当該ルート以外でも北陸 3 県を周遊するバスのニーズは高まると考えられる。もっとも、現状ではバスの運転手不足が問題になっているため、バスの台数と運転手確保に向けた何等かの対応が必要とみられる。
- 航空機については、外国人旅行者の小松空港と富山空港の利用に関し、現状ではコロナ禍前の状況に復していないことから、少なくとも、コロナ禍前のルート・

⁷ 外国人旅行者の二大需要地である東京-関西間を移動する際に、箱根や富士山等を巡って移動するゴールデンルートに対し、日本海側を経由して移動する新ルート。

便数を回復させる必要がある（小松空港と富山空港での発着の状況と活用の余地については、【BOX4】参照）。この点、数年間運休となっている週7便の国際線（台北-富山便・ソウル-富山便）に加え、既存路線の便を追加的に週5便増加させられれば、客数が年間で8万2千人程度増加すると見込まれる。これは2025年における北陸の外国人旅行者数を+6.1%程押し上げる効果がある⁸。加えて、新規の路線（タイ等）を開拓できれば、なお望ましい効果が得られる。ただし、便数維持・拡大には、県のトップセールスも含め誘致に向けた情宣が不可欠。観光コンテンツの充実と合わせ、地道な対応が求められる。

- クルーズについては、宿泊は船内であるため、宿泊数や宿泊消費への貢献はなく、その他の消費への貢献が中心となる。金沢港や伏木富山港等への誘致がポイントとなるが、足もとの年間の寄港数の伸びが続けば、2030年には年間88回の寄港で2025年対比8万6千人の追加効果が期待できる【図表24】。これは、2025年における北陸の外国人旅行者数を+6.5%押し上げる効果がある⁹。ただし、特に金沢港からの市内アクセスについては、一度に乗降する外国人客数が1,000人程度と多く、混雑回避のため何等かの対応が求められる。

【図表24】外国籍クルーズ船寄港本数



(出所) 金沢港振興協会、富山県 HP

⁸ 小松空港と富山空港における1便当たりの入国外国人数（2024年）を各空港の増便数に掛け合わせ、増便した場合の年間増加客数を試算。それを北陸の外国人訪問者数（2025年）と比較して押し上げ効果を試算。

⁹ 金沢港と伏木富山港における外国籍クルーズ船の年間寄港増加数（2023年～2025年平均）を、5年分加算し2030年の寄港数を試算。それを金沢港における1隻当たり外国人乗客数（2025年）に乗じて年間増加客数として、北陸の外国人訪問者数（2025年）と比較して押し上げ効果を試算。

(ハ) 観光コンテンツは十分か

○ 代表的な観光施設については下表の通り【図表 25】。これ以外にも、石川県ではひがし茶屋街、妙立寺（忍者寺）、和倉温泉、加賀温泉郷、能登のキリコ祭り、奥能登国際芸術祭、輪島朝市、白米千枚田、のとじま臨海公園水族館、總持寺祖院、巖門、那谷寺等。富山県では、国宝瑞龍寺・勝興寺、高岡大仏、高岡鋳物店通り（金屋町）、雨晴海岸、ヒスイ海岸、世界遺産・五箇山相倉合掌造り集落、内川運河（日本のベニス）、岩瀬の町並み、黒部峡谷等。福井県では、越前大野城（天空の城）、敦賀赤レンガ倉庫、丸岡城、蘇洞門、佐佳枝廼社等。こうした施設の入込者数を増やすうえでは、各県内での周遊のみならず、3県をつなぐ行程を設定できれば効果的。

【図表 25】 主要観光地・イベント等の延べ入込客数（2024年）

（千人）

	石川県		富山県		福井県	
1	兼六園	2,355	富岩運河環水公園	1,489	武生中央公園	1,647
2	金沢城公園	2,131	道の駅福光	1,223	恐竜博物館・かつやま恐竜の森	1,546
3	金沢21世紀美術館	1,650	氷見漁港場外市場ひみ番屋街(総湯含む)	1,105	道の駅南えちぜん山海里	1,225
4	白山比咩神社	1,120	道の駅KOKOくろべ	867	氣比神宮	1,176
5	木場潟公園	759	海王丸パーク	834	一乗谷朝倉氏遺跡	1,141
6	金沢百万石まつり	534	立山黒部アルペンルート	824	日本海さかな街	1,030
7	氣多大社	419	県民公園太閤山ランド	793	西山公園	797
8	石川県政記念しいのき迎賓館	412	高岡古城公園	747	東尋坊	778
9	金沢城・兼六園四季物語	371	道の駅メルヘンおやべ	687	あわら温泉	680
10	県立美術館	358	道の駅カモンパーク新湊	587	道の駅越前おおの荒島の郷	679
11	千里浜	293	となみチューリップフェア	303	道の駅越前たけふ	641
12	いしかわ動物園	285	山王まつり	250	道の駅恐竜渓谷かつやま	625
13	武家屋敷跡野村家	236	富山まつり	150	大野まちなか観光	613
14	辰口丘陵公園	224	高岡桜まつり	142	道の駅越前	612
15	アクアパークシ・オン	213	おわら風の盆	130	熊川宿	589
16	航空プラザ	206	高岡御車山祭	122	大本山永平寺	544
17	能登食祭市場	176	全日本チンドンコンクール	120	越前海岸(越前町)	529
18	石川県森林公園	161	とやマスノーピアード	110	レインボーライン	472
19	獅子吼高原	158	高岡万葉まつり	86	吉崎御坊	428
20	県立歴史博物館	156	櫛田神社初詣	78	三国湊町散策	420

(注) 富山県は、観光地・観光施設と、イベント・祭り別に上位10位までが公表されており、それに基づいて作成。
(出所) 石川県、富山県、福井県

- 食については、2.（6）でみたように、外国人旅行者が来日目的の筆頭に挙げており、非常に重要なコンテンツ。もっとも、コメントデータの分析からは、日本食の代表格である「すし」や「酒」までの認識はあっても、北陸の具体的な素材や料理への認識は乏しい様子が窺われた。国の登録無形文化財として認められた加賀料理のように、何等かのストーリーと組み合わせ、外国人旅行者の記憶に訴求する取り組みが求められる。また、2.（7）でみたように、外国人旅行者からは、飲食店の閉店時刻が早い点や決済方法の不透明さ（交通系 IC カード／クレジットカード／現金等のうちどの手段が利用できるか）が不満として挙げられているため、そうした面への対応も求められる。
- 土産物等の買い物、北陸体験についても、北陸の観光消費を支える重要なコンテンツ。2.（4）でみたように、中国・香港客は、買い物（土産）消費が活発だが、欧米客は体験消費が多い。そうした特性にあわせたテーマ別の観光を百貨店やショッピングセンター、専門店（工芸品、衣服、眼鏡等）、土産物店（お菓子、小物）と組み合わせ提供することが効果的。例えば、クルーズ観光の中国・香港、台湾客を百貨店に案内し、高額消費の底上げを図るなど。
- 北陸体験については、北陸の工芸や産業あるいは芸能等について、見るだけではなく、実際の工程や作業に触れることで、外国人旅行者の感動を強めることができる。欧米客を中心に、体験に高い価値を見出す傾向は強まっているため、伝統工芸と併せた観光（九谷焼、輪島塗、高岡銅器、井波彫刻、越前和紙等）や産業観光（繊維、眼鏡等）は、北陸各県で連携して取り組む価値が高いとみられる。

（二）情宣活動は十分か

- 北陸3県の観光情宣活動をみると、ホームページでの紹介や SNS を活用した訴求等、当地の魅力の発信活動に努めている。また、近年では、世界の著名メディアで北陸が観光地等として推奨されている【図表 26】。その効果をみるべく、Google での検索規模を確認できる Google Trends を使用し、各都道府県の検索規模を指数化した【図表 27】。石川県を 100 とすると、同県は 47 都道府県中 15 位で、富山県 30 位、福井県 38 位となる。富山・福井県を中心により検索されるよう工夫をしていく必要がある。
- また、2.（7）でみたように外国人旅行者は、観光後の感想として、施設における「英語の案内の不足」や交通機関における「利用方法の不透明さ」を指摘している。彼らの立場に立つと、多言語対応がどの程度浸透しているかも重要な尺度。この点、北陸での浸透度はなお低く、多言語での動画や SNS 等の利活用および各種観光地や飲食店での表示、パンフレットへの対応など対応の余地は大きい。

【図表 26】海外メディアでの北陸紹介事例

時期	掲載紙	県	見出し(どのような内容か)
24/10	(米)ナショナル ジオグラフィック	石	Best of the World 2025 (2025 年に行くべき世界の旅行先 25 選)
25/1	(米)ニューヨーク ・タイムズ	富	52 Places to Go in 2025 (2025 年に行くべき 52 カ所)
25/1	(仏)エル・フランス	石	8 destinations à faire une fois dans sa vie (一生の間に1度は訪れるべき場所8選)
25/4	(米)アーケオロジー (考古学専門誌)	福	Lost City of the Samurai (一乗谷朝倉氏遺跡の特集)
25/4	(米)コンデナスト ・トラベラー	富	50 Quietest Places Around the World (世界の静かな場所 50 選)
25/5	(米)コンデナスト ・トラベラー	福	Uncovering Japan (訪れるべき隠れた名所を紹介するコーナー)
26/2	(英)ロードスターズ ・アンソロジー	石	Kanazawa (金沢に関するガイド本)

(出所) 報道情報等

【図表 27】検索指数

(石川=100) (万人)			
	都道府県	検索指数	訪問者数
1	東京都	8300	2,089
2	京都府	2600	1,222
3	大阪府	1767	1,699
4	高知県	589	9
5	兵庫県	400	214
...			
15	石川県	100	88
...			
30	富山県	21	36
...			
38	福井県	12	8
...			

(注) Google の旅行カテゴリで、各都道府県庁所在地名(ローマ字表記)が、2025 年中に平均してどの程度検索されたかを取得し、石川県を基準に指数化。

(出所) Google Trends、観光庁「インバウンド消費動向調査」(2025 年)

(ホ) 価格設定は適切か

- 日本の物価水準の低さや為替円安に伴い、外国人旅行者が感じる財・サービスの価格は低い状況が生じている。米国における一人一泊当たりの平均単価と比べ、北陸での単価はおよそ3-6割となっている¹⁰。また、例えば世界全体でサービスを展開するディズニーランドの入場料について日米比較すると、東京ディズニーランドの価格がカリフォルニアディズニーランドの半分程度となる時もある。その他事例には枚挙にいとまが無いが、そうした傾向から、北陸において外国人旅行者向けの価格を引き上げる余地はあるとみられる。
- この点、代表的な観光施設の入館料に二重価格を設定し、外国人旅行者向けの価格を通常の2倍とした場合(娯楽等サービス費が2倍となる)、2025年における北陸3県の消費額を+2.2%(+14億円)程引き上げる効果がある¹¹。
- なお、海外では、既に多くの国で二重価格が導入されているほか、日本でも二重価格の導入がみられ始めている【図表 28】。

¹⁰ Hotels.com が公表する Hotel Price Index 中、米国内旅行の目的地上位 25 都市における ADR (客室平均単価、2024 年の値) を単純平均すると、1 室 30,973 円 (197 ドル <1 ドル 157 円で換算>) で、1 室 2 人と仮定すると、一人当たり一泊 15,486 円となる。一方、北陸は、2025 年の宿泊単価 (インバウンド消費動向調査) を平均泊数で除して算出すると、石川県は一人当たり一泊 9,600 円、富山県は同 7,772 円、福井県は同 4,772 円となる。

¹¹ 娯楽等サービス費の外国人旅行消費額 (2025 年) を 2 倍とした金額を、北陸全体の外国人旅行消費額 (2025 年) と比較して押し上げ効果を試算。

【図表 28】観光地における二重価格設定事例

	名称	場所	居住者(範囲)	観光客
1	ヨセミテ国立公園等	アメリカ	20 米ドル(国民) (≒3,100 円)	120 米ドル (≒18,800 円)
2	大エジプト博物館	エジプト	200EGP(国民) (=600 円)	1,590EGP (≒4,700 円)
3	ルーブル美術館	フランス	22 ユーロ(EEA) (≒4,000 円)	32 ユーロ (≒5,800 円)
4	アンコールワット	カンボジア	無料(国民)	37 米ドル (≒5,800 円)
5	アユタヤ遺跡群	タイ	無料(国民)	80 バーツ (=400 円)
6	ジャングルリア	沖縄	6,930 円(国民)	8,800 円
7	姫路城	兵庫	1,000 円(市民)	2,500 円

(注) 1米ドル=157 円、1ユーロ=184 円、1EGP(エジプトポンド)=3円、1バーツ=5円として計算。

(出所) 各観光地公式 HP 等

(へ) オーバーツーリズムへの対応は十分か

- 2. (3) でみたように、マクロ的な分析からは、石川県(金沢)においてオーバーツーリズムが発生している可能性が窺われる。実際、金沢市のアンケート¹²では、インバウンド客のマナー違反や近江町の混雑、騒音等を不満に思う声が聞かれている。政府が掲げている「持続可能な観光」を達成する観点からも、こうした声に真摯に耳を傾け、適切な対応を図ることが期待される。

4. 上記3. を踏まえた行政や民間の対応事例

- 北陸3県では、各種インフラやコンテンツ等を充実させるため、官民双方で活発な取り組みがなされている。事例は【図表 29】にまとめている。各県ともに、ラグジュアリーホテルの誘致や、一次交通・二次交通の充実化、様々な観光商品の造成や商品・サービスの高付加価値化に取り組んでいる様子が確認できる。足もと、そうした取り組みの一部は実を結んでいるが、今後さらなる発展を期待したい。

¹² 「金沢市の観光に関するアンケート調査報告書(令和6(2024)年度)」中、2.(3)問7【回答の主な理由】より抜粋。

【図表 29】 3. (2) の各種課題に対する行政／民間の対応事例

項目	石川県	行政	民間
イ	宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> 都市再生緊急整備地域の指定による金沢駅東地域の高さ・容積規制の緩和 予算対応（能登宿泊割引等） 	<ul style="list-style-type: none"> 金沢都ホテル跡地の再開発 松風閣庭園を核としたラグジュアリーホテル誘致 プレーゴ跡地の再開発
ロ	交通	<ul style="list-style-type: none"> アジア近隣諸国との新規航空路線開設に向けた働きかけ ドライブマップの作成や道の駅での多言語化対応によるドライブ観光の促進 公共ライドシェアの導入 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルサイネージを設置し、バスの到着時刻等や経由する観光地のピクトグラムを表示 観光車両の運行（花嫁のれん号、金沢ライトアップバス等） ラグジュアリーバスでのツアー
ハ	観光コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 押し活需要喚起のための連携（名探偵コナン、サンリオキャラクター、ラブライブ！等） いしかわ文化観光コンテンツ造成支援（リアル・サムライキングダム KAGA・KANAZAWA ツアー事業等） 石崎奉燈祭、和倉温泉お祭り会館のメタバース化（Safety NOTO） 震災遺構ジオパーク化等、地域資源化に向けた取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルスタンプラリーの開催や、周遊旅行商品の造成等 産業や伝統工芸と併せた各種体験観光（カジファクトリーパーク、箔巧館、ゆのくにの森等） 震災語り部観光列車
ニ	情宣活動	<ul style="list-style-type: none"> 県や金沢市等による海外メディア、インフルエンサーの招請 各種 SNS の活用、多言語コンテンツの発信 アンテナショップ（八重洲いしかわテラス）での各種イベント（日本酒試飲会、能登復興フェア等）実施 	<ul style="list-style-type: none"> 湯の曲輪（山代温泉）のクールジャパンアワード 2025 獲得 一部ホテル・旅館による HP 等の多言語化対応 インバウンド向けの広報誌や紙版ガイドの発行（飲食店や観光名所、観光時のマナー等を掲載） ミシュランキー獲得（あらや滔々庵、べにや無何有、一能登島）
ホ	価格	<ul style="list-style-type: none"> 兼六園での二重価格導入検討 各種施策を通じた高付加価値化（芸妓文化体験を組み込んだツアー支援、MICE 誘致による認知度やブランド力の向上等） 	<ul style="list-style-type: none"> 加賀の伝統や自然を生かした、高付加価値かつ高単価なツアーの企画 顧客体験の向上等を通じた高付加価値化（星野リゾート界加賀、河鹿荘等）
ヘ	混雑対応	<ul style="list-style-type: none"> オーバーツーリズムに関する意見交換会の開催 SNS 広告等によるマナー啓発活動、飲食店におけるルール啓発ツールの配付 リアルタイムでの混雑状況の見える化（近江町市場やひがし茶屋街等にライブカメラを設置） 季節ごとの相互誘客により繁閑の差を縮小する観光連携（金沢市と長野県白馬村） 	<ul style="list-style-type: none"> 多言語での注意喚起（近江町市場でのポスター掲示等） 尾山神社等でのオンライン予約 金沢以外での旅行プランの提供（能登における農家民宿等） ダイナミックプライシング（空室数等に応じて価格を調整する仕組み）を用いた需要管理

（注）各項目に該当する対応の一部を、県別・主体別・項目別に掲載している。ここに掲げるものはあくまでも一例に過ぎず、このほかにも様々な取り組みがなされている。

（出所）各自治体・団体 HP、報道情報等

【図表 29】 3. (2) の各種課題に対する行政／民間の対応事例（続き）

項目	富山県	行政	民間
イ	宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ラグジュアリーホテルの新設や既存施設の改築時の費用への補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ラグジュアリーホテルの新設（ダブルツリーby ヒルトン） 古民家再生によるスモールラグジュアリー施設化 世界的デザイナーの調度品等を採用したスイートルームの新設
ロ	交通	<ul style="list-style-type: none"> 富山空港へのチャーター便誘致 「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟している富山湾のサイクリングロード整備 富山県と北九州市、JR西日本による「すしのゴールデンルート」構想 	<ul style="list-style-type: none"> 観光列車の運行（一万三千尺物語、べるもんた等） トラム（路面電車）の観光資源化（ドラえもんとのコラボ） EV トゥクトゥクのレンタルによる街中観光（魚津）
ハ	観光コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> 黒部宇奈月キャニオンルートの一一般開放に向けた取り組み 富山トラベルデザイナー実践事業によるコンテンツ開発 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルスタンプラリーの開催や、周遊旅行商品の造成等 産業や伝統工芸と併せた各種体験観光（三郎丸蒸留所、能作、Play Earth Park Naturing Forest 等） ハラル対応の推進
ニ	情宣活動	<ul style="list-style-type: none"> 米国で開催されたジャパンパレードへの参加 県や富山市等による海外メディア、インフルエンサーの招請 各種 SNS の活用や、多言語コンテンツの発信 	<ul style="list-style-type: none"> 黒部峡谷および宇奈月温泉街の歴史や自然等を活用した訴求 Web を通じた多言語コンテンツの発信（観光客目線の体験動画やまだ知られていないスポットの紹介等） ミシュランキー獲得（Bed and Craft）
ホ	価格	<ul style="list-style-type: none"> 各種施策を通じた高付加価値化（MICE 誘致による認知度やブランド力の向上等） ラグジュアリーホテルの新設や既存施設の改築時の費用への補助金 宿泊税の導入検討（立山町） 	<ul style="list-style-type: none"> 施設の改修や顧客体験の向上等を通じた高付加価値化（オールインクルーシブ化等） 氷見温泉郷総湯等の値上げ オーベルジュ整備（東岩瀬、利賀村等）による特別感の提供
ヘ	混雑対応	<ul style="list-style-type: none"> 臨時列車の運行や注意喚起等の強化（「おわら風の盆」の時期等） 富岩運河環水公園の駐車場有料化 	<ul style="list-style-type: none"> 混雑状況を多言語で HP に表示（立山黒部アルペンルート） ダイナミックプライシング（空室数等に応じて価格を調整する仕組み）を用いた需要管理

（注）各項目に該当する対応の一部を、県別・主体別・項目別に掲載している。ここに掲げるものはあくまでも一例に過ぎず、このほかにも様々な取り組みがなされている。

（出所）各自治体・団体 HP、報道情報等

【図表 29】 3. (2) の各種課題に対する行政／民間の対応事例（続き）

項目	福井県	行政	民間
イ	宿泊施設	<ul style="list-style-type: none"> ・若狭湾プレミアムリゾートエリアプロジェクト（リゾートホテルやオーベルジュ等） ・旅の目的となる上質な宿泊施設の整備を支援する補助金制度新設 	<ul style="list-style-type: none"> ・福井駅近くに4つ星ホテルが開業予定（2027年カンデオホテルズ） ・星野リゾートによるあわら温泉老舗旅館跡地の再開発 ・恐竜博物館近くの再開発
ロ	交通	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線の延伸 ・福井空港へのチャーター便誘致 ・公共ライドシェアの運行開始 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光車両の運行（はなあかり、はぴバス、WOW RIDE いこっさ!福井号等） ・交通系ICカードの全域利用可能化 ・タクシーにおける配車アプリ導入
ハ	観光コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・あわら湯のまちみらいプロジェクト（イベントや夜間景観の創出等） ・若狭湾プレミアムリゾートエリアプロジェクト（エンゼルライン展望スペース、水晶浜の見える丘等） ・金ヶ崎地区でのオーベルジュや賑わい拠点の整備 ・福井アリーナの建設に伴うスポーツ大会、コンサート、MICE 需要等獲得へ向けた検討 ・杉原千畝ルート推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルスタンプラリーの開催や、周遊旅行商品の造成等 ・産業や伝統工芸と併せた各種体験観光（ESHIKOTO、越前和紙の里、タケフナイフビレッジ等） ・ReBorn プロジェクトの推進（芦原温泉旅館協同組合） ・有名IPとのコラボ（ポケモン化石博物館等） ・参禅体験（永平寺等） ・地方銀行子会社による体験型ツアーの造成
ニ	情宣活動	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪・関西万博への「恐竜王国福井」の出展 ・イメージロゴ、キャラクターを活用したPR（福いいネ!くん等） ・国際文化交流大使を通じた情宣（“Japan Off the Beaten Path: Fukui” 等） ・県や福井市等による海外メディア、インフルエンサーの招請 ・各種SNSの活用や、多言語コンテンツの発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部ホテル・旅館によるHP等の多言語化対応 ・インスタ映えスポットの造成（休暇村越前三国、レインボーライン等） ・第39回につぼんの温泉100選で第7位獲得（あわら温泉）
ホ	価格	<ul style="list-style-type: none"> ・県による上質で高級感のある宿泊施設（平均客室単価2万円以上）の整備を支援する補助金制度を新設 ・各種施策を通じた高付加価値化 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の改修や顧客体験の向上等を通じた、高付加価値化（オールインクルーシブ化等） ・ラグジュアリーホテルの展開による特別感の提供
ヘ	混雑対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「ネクストふくい観光ビジョン」での重点施策および新規施策化 	<ul style="list-style-type: none"> ・予約制チケットの導入（恐竜博物館） ・ダイナミックプライシング（空室数等に応じて価格を調整する仕組み）を用いた需要管理

（注）各項目に該当する対応の一部を、県別・主体別・項目別に掲載している。ここに掲げるものはあくまでも一例に過ぎず、このほかにも様々な取り組みがなされている。

（出所）各自治体・団体HP、報道情報等

5. まとめ（将来への期待）

- 本稿では、政府の掲げる 2030 年までの外国人旅行者数、および同消費額目標を達成するうえで、北陸地域がどのような立ち位置にあるのか整理してきた。北陸地域における外国人旅行者、および同消費額は年々増加傾向にある一方で、目標を達成するためには、なお一層誘客に努め、消費も喚起していく必要があることが分かった。
- 課題としては、各県における外国人旅行者数の差異をどう縮めるかや、旅行者全体の消費額や平均宿泊日数の全国平均対比でみた低さをどう高めるか、名産品等の認知度合いを高め、多言語対応をどう図るか等。こうした点を改善するためにも、宿泊施設や交通インフラの整備、北陸全体を周遊する観光ルートの定着、多言語案内や SNS 等を活用した情宣の強化など、まだまだ対応すべき事柄は多い。また、観光資源の高付加価値化、石川県（金沢市）を中心としたオーバーツーリズムへの配慮と観光資源の持続可能な活用も求められている。
- これまで取り組んできた個々の対応に加え、今後は、北陸 3 県が相互に補完し合いながら協力体制を強化し、地域全体の発展を目指すことで、北陸全体として一層注目される魅力ある観光地の確立を図っていくことが求められる。この点、2025 年 10 月には、「北陸三県広域リージョン連携」が宣言され、2026～2030 年度に 3 県連携事業のプロジェクト化が推進されることとなった。広域観光誘客も強力に推進されることが期待される。
- この間、世界情勢は混とんとしており、中国政府による渡航自粛要請や中東情勢の悪化等、インバウンド需要に影響を与える事象も発生している。今後も、様々な要因で、インバウンドの動向は変化する可能性があるため、特定の国からの旅行者に依存するのではなく、多様な国籍の旅行者に選ばれる努力も必要だろう。
- 北陸地域は食文化や伝統文化、自然美等の「北陸ならではの」ものが数多く存在している。これらを活かすとともに、外国人旅行者のニーズに適切に対応し、北陸を面（3 県全体）で捉えて、シナジー効果を高め、その魅力を世界に効果的に発信すれば、北陸はインバウンド観光地としての地位をより確固たるものにできるのではないか。そして、観光を重要な柱として地域経済全体が持続可能な成長を続けていくことを期待したい。

以 上

【BOX1】コメントデータ分析手法

○ コメントデータは以下のとおり取得し、登場頻度、共起語¹³について分析¹⁴を実施。結果は、【参考 1-1、1-2、1-3】の通り。

① 北陸3県の旅行関連動画中、再生回数上位100本に付されたコメントを取得。
 —— 国籍別のデータ取得は難しいため、国・地域及び言語を米国（US）としたうえで、県名／県庁所在地名+”trip”で検索し、視聴回数上位100本の動画を対象とした。

② 上記コメントについて形態素解析の中の特定の単語について、登場頻度（登場回数を総単語数で除して算出、%）を確認し、特徴を確認する。

③ 北陸3県についてジャカード係数が大きい共起語を検出・確認し、特徴を探る。
 —— もっとも、動画の内容によってコメント内容も変わるため、偏りを完全に排除できない点は留意する必要。

○ ジャカード係数とは、AとBという共起語の組み合わせについて、AとBが同時に登場する回数をAまたはBが登場する回数で割ったものをいう。AとBという語のジャカード係数は、以下の式で求められ、0～1の値をとる。

$$J(A, B) = \frac{A \cap B}{A \cup B}$$

○ 例えば、文章中に「私」が150回登場し、「あなた」が60回登場しているとし、うち「私」と「あなた」が同一文中に登場する回数が10回だとすると、

$$J(\text{私}, \text{あなた}) = \frac{10}{150 + 60 - 10} = \frac{10}{200} = 0.05$$

となる。

○ 本係数を採用するメリットとして、各単語の登場回数が大きく異なっている場合であっても、単純に共起回数で比較するのではなく、共起頻度で比較可能な点が挙げられる。例えば、Aが500回登場した一方、Bが10,000回登場しており、うちAとBが共起された回数が500回である場合と、100回登場するCに対し、共起した回数が50回である場合を比べるとする。共起回数はAとBの方が大きいものの、これはBの登場回数が著しく多いためである。ジャカード係数としてみると、AとCの方が大きく、集合の大きさに依らず、共起のされやすさを比較可能である。

	A	B	A ∩ B	J(A, B)	C	A ∩ C	J(A, C)
回数/係数	500	10,000	500	0.05	100	50	0.09

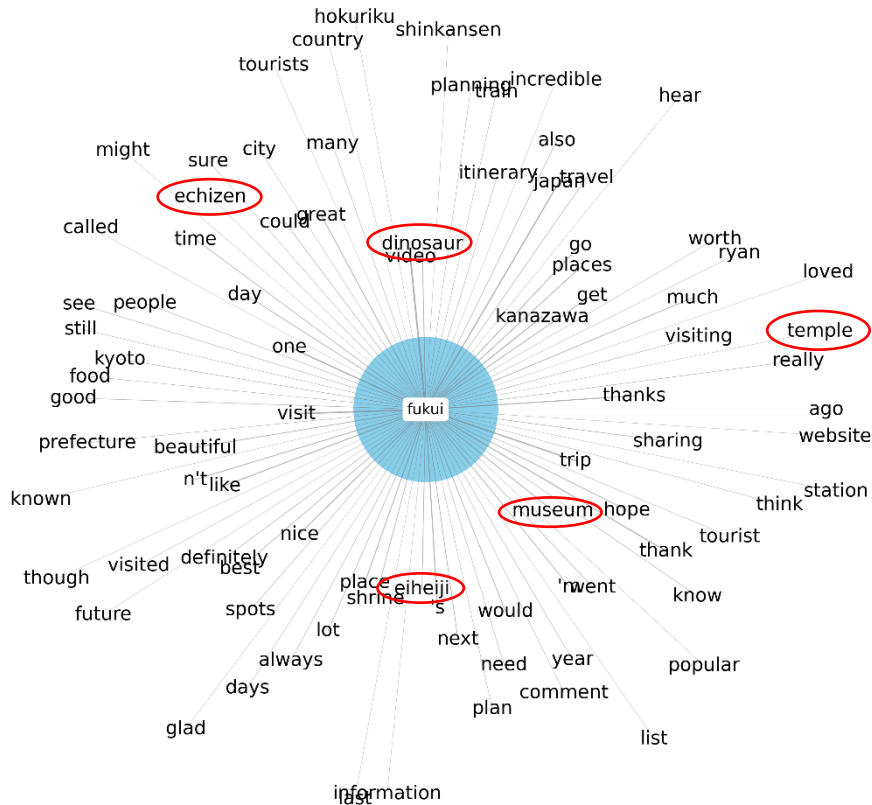
(注) AとCのジャカード係数は小数第三位で四捨五入している。

¹³ 一文の中で同時に使われる語のことであり、「私/は/リンゴ/を/食べる」という文章であれば、「私」と「リンゴ」、「リンゴ」と「食べる」、「私」と「食べる」の3組がそれぞれ共起語である。

¹⁴ 本稿ではPythonライブラリのNLTK (Natural Language Toolkit) を使用している。同ライブラリに内蔵のリストを適用し、登場頻度が多いが単体では意味を持たない記号や前置詞等は不要語 (stop words) として除外。

【参考 1-3】 共起語ネットワーク (fukui)

Co-occurrence Network (Jaccard ≥ 0.03) centered on 'fukui'

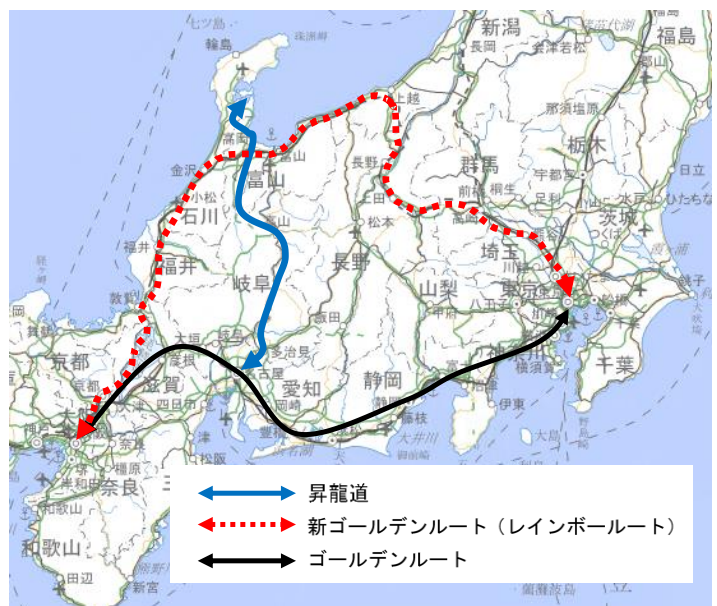


(注) 中心の単語との距離がジャッカード係数に対応しており、中心に近い程頻繁に共起されている。また、中心にある円は中心の単語の登場回数に応じた大きさ。ジャッカード係数が 0.03 以上の単語のみ掲載。
(出所) 日本銀行金沢支店

【BOX2】 北陸を訪れる外国人旅行者の動線

- 北陸を経由する観光経路として、昇龍道や新ゴールデンルートが有名【参考 2-1】。
- 昇龍道とは、名古屋から中部を縦断し、能登へと向かうルート。龍を見立てたコース。龍を縁起物とするアジア圏のインバウンドに人気。
- ゴールデンルートとは、東京から大阪まで東海道新幹線を使用して向かうルート。箱根や富士山といった有名観光地を訪問可能。
- 新ゴールデンルートとは、東京から大阪まで北陸新幹線等を使用して向かうルート。自然・食・文化等様々な面で日本旅行を満喫できる。

【参考 2-1】 観光経路



(注) 国土地理院のデータをもとに筆者加工。
(出所) 国土地理院ウェブサイト (<https://maps.gsi.go.jp/>)

○ また、インバウンド消費動向調査の個票データからも、当地を訪れる外国人旅行者が前述のようなルートを通っているとみることが可能【参考 2-2、2-3、2-4】。各県別の特徴は以下の通り。

○ 石川県は初めて訪日した外国人旅行者に選ばれる割合も相応に高く、新ゴールデンルートのほか、岐阜（白川郷等）や京都と併せた観光も多い。訪日経験者は、アジア系が多く、愛知（中部国際空港）を利用し、石川や富山等北陸内を観光するケースが多い。

○ 一方、富山県と福井県については、訪日1回目の入国・出国場所をみると、富山については愛知（中部国際）から入国し、石川や岐阜を併せて訪問する外国人旅行者が多く、東京（羽田）や千葉（成田）、ないし大阪（関西国際）から入国し、新ゴールデンルートに沿って観光する層が相対的に少ない様子。反対に福井は新ゴールデンルートの一部としての訪問が多い模様。いずれにせよ、富山県・福井県については訪日経験がある外国人旅行者の訪問割合が高く、初めて訪日する際の目的地としては選ばれにくい様子。

【参考 2-2】 各県を訪問した外国人が入国/直前/直後/出国時に滞在していた都道府県

＜石川県＞

＜富山県＞

＜福井県＞

総合計	入国	直前	直後	出国
1位	愛知県	石川県	石川県	愛知県
2位	千葉県	岐阜県	岐阜県	千葉県
3位	東京都	東京都	富山県	東京都
4位	石川県	富山県	京都府	石川県
5位	大阪府	愛知県	東京都	大阪府
6位	富山県	京都府	愛知県	富山県

入国	直前	直後	出国
愛知県	富山県	富山県	愛知県
石川県	石川県	石川県	石川県
千葉県	岐阜県	岐阜県	富山県
富山県	愛知県	長野県	千葉県
東京都	長野県	愛知県	東京都
大阪府	東京都	東京都	大阪府

入国	直前	直後	出国
大阪府	石川県	石川県	大阪府
愛知県	愛知県	愛知県	愛知県
石川県	京都府	大阪府	石川県
千葉県	大阪府	京都府	千葉県
東京都	富山県	福井県	東京都
富山県	福井県	岐阜県	富山県

初訪日	入国	直前	直後	出国
1位	千葉県	岐阜県	京都府	千葉県
2位	東京都	東京都	岐阜県	東京都
3位	大阪府	石川県	石川県	大阪府
4位	石川県	京都府	東京都	石川県
5位	愛知県	富山県	富山県	愛知県
6位	富山県	長野県	長野県	富山県

入国	直前	直後	出国
愛知県	富山県	富山県	愛知県
石川県	石川県	石川県	石川県
千葉県	岐阜県	岐阜県	富山県
東京都	東京都	長野県	千葉県
富山県	長野県	東京都	東京都
大阪府	愛知県	愛知県	大阪府

入国	直前	直後	出国
千葉県	石川県	京都府	千葉県
大阪府	大阪府	大阪府	大阪府
東京都	岐阜県	石川県	東京都
愛知県	愛知県	東京都	愛知県
富山県	富山県	愛知県	富山県
石川県	京都府	千葉県	石川県

経験者	入国	直前	直後	出国
1位	愛知県	石川県	石川県	愛知県
2位	石川県	岐阜県	富山県	石川県
3位	千葉県	富山県	岐阜県	千葉県
4位	東京都	愛知県	京都府	大阪府
5位	大阪府	東京都	愛知県	東京都
6位	富山県	京都府	東京都	富山県

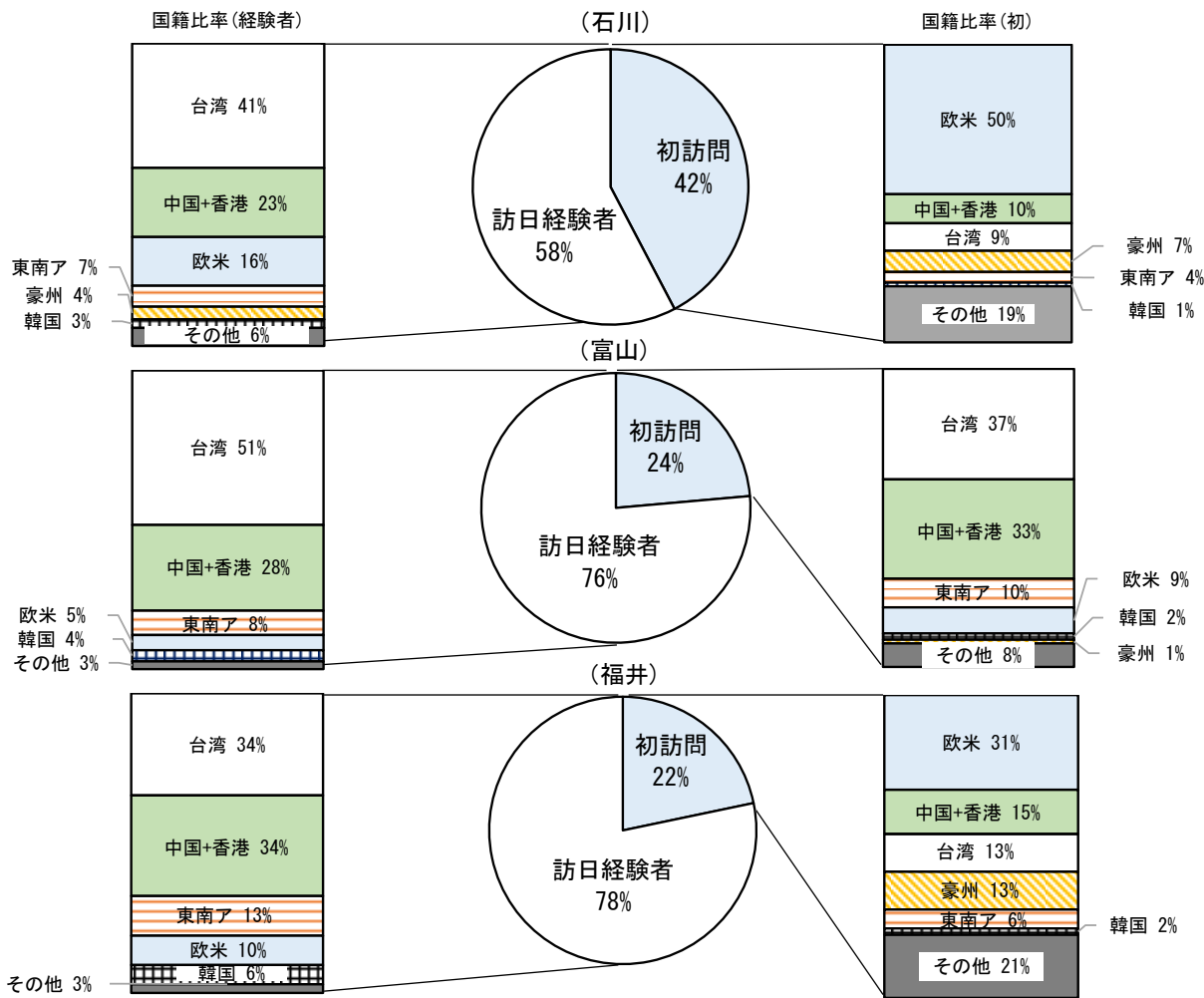
入国	直前	直後	出国
愛知県	富山県	富山県	愛知県
石川県	石川県	岐阜県	石川県
千葉県	岐阜県	石川県	千葉県
富山県	愛知県	長野県	富山県
東京都	長野県	愛知県	東京都
大阪府	東京都	東京都	大阪府

入国	直前	直後	出国
愛知県	石川県	石川県	愛知県
大阪府	愛知県	愛知県	大阪府
石川県	京都府	大阪府	石川県
東京都	福井県	福井県	東京都
千葉県	富山県	岐阜県	千葉県
岡山県	大阪府	富山県	富山県

（注）2025年の1年分の個票データを使用。観光・レジャー目的の項目を集計。以下同じ。上表は、あくまでも北陸各県の観光地を訪れる直前/入国時に滞在していた都道府県の個別のランキングであり、通過ルートのランキングではない。

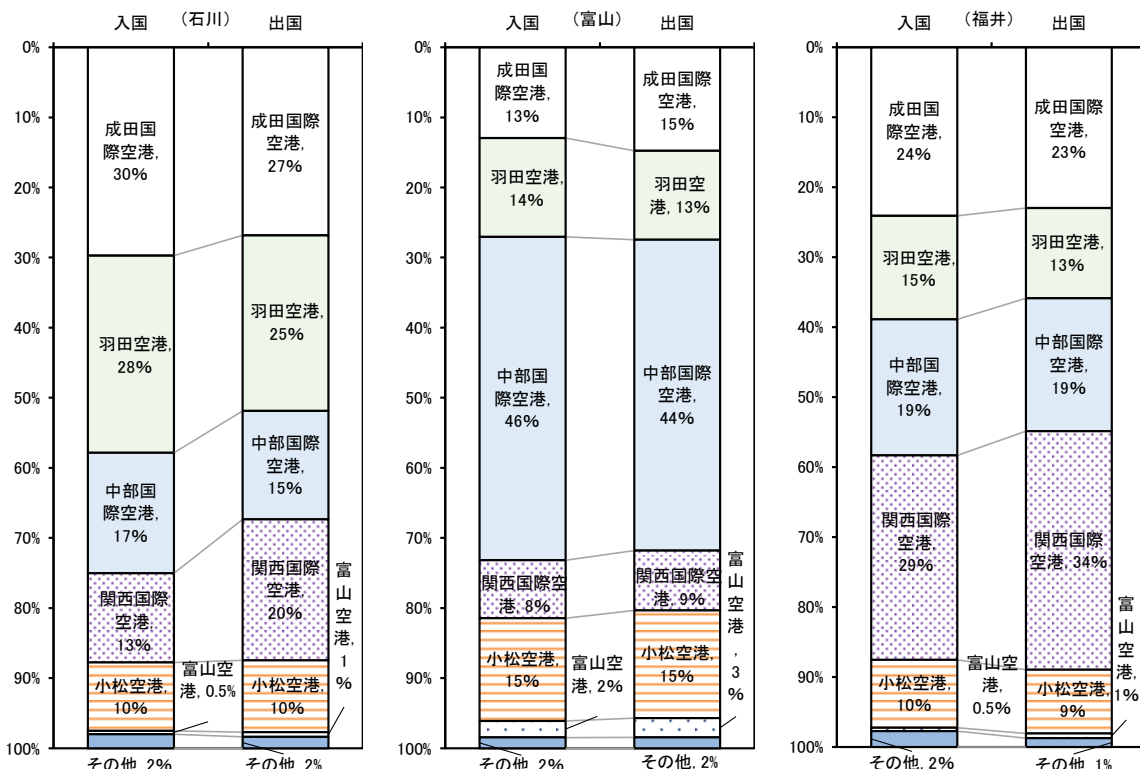
（出所）観光庁「インバウンド消費動向調査」個票データに基づき日本銀行金沢支店作成

【参考 2-3】初訪問者・訪日経験者割合



(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」個票データに基づき日本銀行金沢支店作成

【参考 2-4】入出国空港割合



(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」(2025年)

【BOX3】日本旅行中に使用した移動手段

○ 日本旅行中に利用した交通手段をみると【参考3-1】、長距離移動の手段としては特に新幹線や貸切バス等が、近距離の移動として鉄道や近郊バス、タクシー等が活用されている。福井県ではレンタカーの使用割合も高い。

○ どの地域から何を使って各県へ旅行しているかみると【参考3-2】、石川県には東京都や京都府から鉄道、また岐阜県からバスを使用して入る割合が高い。また、富山県には石川県や岐阜県・長野県からバス、また東京都や石川県から鉄道を使用して入る割合が高く、福井県には石川県や大阪府から鉄道を使って入る割合が高いことが確認できる。

【参考3-1】利用した交通手段

(%)	石川県	富山県	福井県
航空	4.3	2.2	1.3
新幹線	66.9	33.0	52.8
鉄道・モノレール	76.5	48.7	72.5
貸切バス	24.1	48.5	17.8
長距離バス	15.5	15.2	14.4
近郊バス	39.1	21.4	36.4
タクシー・ハイヤー	33.5	16.2	23.0
レンタカー	10.7	11.7	22.2
レンタサイクル	3.5	1.6	2.3
船舶	7.9	2.1	5.9
その他	1.2	1.5	2.9
徒歩移動のみ	0.0	0.0	0.0

(注) 各県を訪問したインバウンドのうち、各手段を日本旅行中に使用した割合。観光・レジャー目的の項目を集計。複数回答可。

(出所) 観光庁「インバウンド消費動向調査」(2025年)

【参考3-2】交通手段別インバウンド流入量

<石川県>

出発地	バス	鉄道	タクシー	レンタカー	乗用車	国内飛行機	その他	不明
北海道	0	1	0	0	0	3	0	0
東北地方	0	4	0	0	0	0	0	1
茨城	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木	1	3	0	0	0	0	0	0
群馬	0	3	0	0	0	0	0	0
埼玉	0	1	0	0	0	0	0	0
千葉	0	1	0	0	0	0	0	0
東京	3	64	0	1	1	1	1	0
神奈川	2	12	0	1	0	0	1	0
新潟	1	2	0	0	0	0	0	0
富山	21	11	0	5	0	0	0	0
石川	16	4	0	0	1	0	0	0
福井	2	4	0	2	0	0	0	0
山梨	0	0	0	0	0	0	0	6
長野	5	24	0	0	4	0	0	0
岐阜	48	45	1	7	1	0	0	0
静岡	1	3	0	0	0	0	0	0
愛知	25	10	0	4	0	0	0	0
三重	0	1	0	0	0	0	0	0
滋賀	2	0	0	0	2	0	0	0
京都	4	55	0	0	0	5	0	0
大阪	4	31	0	0	0	0	0	0
兵庫	2	6	0	0	1	0	0	0
奈良	3	5	1	0	0	0	0	0
和歌山	0	3	0	0	0	0	0	0
鳥取	0	0	0	0	0	0	0	0
島根	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山	0	1	0	0	0	0	0	0
広島	0	13	0	0	0	0	0	0
山口	0	0	0	0	0	0	0	0
四国地方	1	0	0	0	0	0	0	0
九州地方	0	1	0	0	0	0	1	1

<富山県>

出発地	バス	鉄道	タクシー	レンタカー	乗用車	国内飛行機	その他	不明
北海道	0	0	0	0	0	1	0	0
東北地方	0	1	0	0	0	0	0	0
茨城	0	0	0	0	0	0	0	1
栃木	0	0	0	0	0	0	0	1
群馬	0	0	0	0	0	0	0	1
埼玉	0	1	0	0	0	0	0	0
千葉	1	0	0	1	0	0	0	0
東京	5	18	0	2	0	1	0	0
神奈川	1	1	0	0	0	0	0	0
新潟	0	1	0	0	0	1	0	0
富山	0	3	0	0	3	0	6	0
石川	20	14	0	3	0	0	0	0
福井	0	1	0	1	0	0	0	0
山梨	0	0	0	0	0	0	0	4
長野	17	6	0	2	0	0	2	0
岐阜	17	10	0	5	0	0	1	0
静岡	0	0	0	1	0	0	0	0
愛知	12	3	0	3	0	0	0	0
三重	0	0	0	0	0	0	0	0
滋賀	0	0	0	0	0	0	0	1
京都	1	3	0	0	0	0	1	0
大阪	0	3	0	0	2	0	0	0
兵庫	0	0	0	0	0	0	0	1
奈良	0	0	0	0	0	0	0	2
和歌山	1	0	0	0	0	0	0	0
鳥取	0	0	0	0	0	0	0	0
島根	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山	0	1	0	0	0	0	0	0
広島	0	0	0	0	0	0	0	0
山口	0	0	0	0	0	0	0	0
四国地方	0	0	0	0	0	0	0	0
九州地方	0	0	0	0	0	0	0	0

<福井県>

出発地	バス	鉄道	タクシー	レンタカー	乗用車	国内飛行機	その他	不明
北海道	0	0	0	0	0	0	0	0
東北地方	0	0	0	0	0	0	0	0
茨城	0	0	0	0	0	0	0	0
栃木	0	0	0	0	0	0	0	0
群馬	0	0	0	0	0	0	0	0
埼玉	0	0	0	0	0	0	0	0
千葉	0	0	0	0	0	0	0	0
東京	0	2	0	0	0	0	0	0
神奈川	0	1	0	0	0	0	0	0
新潟	0	0	0	0	0	0	0	0
富山	0	1	0	1	0	0	0	0
石川	2	6	0	3	0	0	0	0
福井	0	0	0	0	0	0	0	1
山梨	0	0	0	0	0	0	0	0
長野	0	0	0	0	0	0	0	0
岐阜	1	0	0	1	0	0	0	0
静岡	0	0	0	0	0	0	0	0
愛知	2	1	0	0	0	0	0	0
三重	0	0	0	0	0	0	0	0
滋賀	0	1	0	0	0	0	0	0
京都	0	2	0	1	0	0	0	0
大阪	0	4	0	0	0	0	0	0
兵庫	1	0	0	0	0	0	0	0
奈良	0	0	0	0	0	0	0	0
和歌山	0	0	0	0	0	0	0	0
鳥取	0	0	0	0	0	0	0	0
島根	0	0	0	0	0	0	0	0
岡山	0	0	0	0	0	0	0	0
広島	0	0	0	0	0	0	0	0
山口	0	0	0	0	0	0	0	0
四国地方	0	0	0	0	0	0	0	0
九州地方	0	0	0	0	0	0	0	0

(注) 各県を到着地とし、出発地と使用した交通手段のマトリクス。九州地方には沖縄県を含む。単位は千人/年。

(出所) 国土交通省「FF-Data (訪日外国人流動データ)」(2024年)

【BOX4】各空港の発着状況

- 北陸で国際便が就航しているのは、富山の富山空港、石川の小松空港である。それぞれについて国際便の着陸回数をみると、小松空港は47空港中12位に位置する一方、富山空港は21位となっている【参考4-1】。
- 地方空港の中で国際線着陸回数の多い仙台空港や高松空港と比較すると、両空港は当地の空港と同じく中国／韓国の空港との路線を有しており、異なるのは路線の数と運航頻度であることがわかる【参考4-2】。
- 足もと運休となっている複数の定期便の再開の他、チャーター便の誘致、タイ等との新たな国際定期便の就航等様々な方策を通じて、さらなるインバウンド需要の獲得、および北陸を起点とする周遊観光の促進が期待される。

【参考4-1】国際便着陸回数・入国数

順位	空港	着陸回数	入国外国人数
1	成田国際	95,488	10,894,962
2	関西国際	72,553	9,457,919
3	東京国際	56,776	6,258,927
4	福岡	22,547	3,416,860
5	中部国際	18,044	1,546,131
6	新千歳	8,958	1,677,971
7	那覇	8,894	1,364,469
8	仙台	1,523	192,679
9	高松	1,340	178,321
10	広島	1,316	107,102
11	熊本	1,290	181,921
12	小松	863	77,527
13	北九州	857	61,399
14	松山	846	112,927
15	岡山	814	82,719
16	静岡	660	60,869
17	鹿児島	620	70,366
18	函館	516	83,647
19	佐賀	450	61,440
20	新潟	426	30,381
21	富山	326	30,654
22	大分	316	47,692
23	美保(米子)	213	25,231
24	百里(茨城)	209	22,074
25	宮崎	192	20,386
26	青森	188	17,633
27	下地島	160	23,320
28	長崎	159	10,775
29	旭川	133	18,852
30	花巻	110	15,494

(注) 着陸回数順。47空港中上位30空港を記載。
 カッコ内は各空港の別名称。2024年。
 (出所) 国土交通省「空港管理状況」、出入国管理統計

【参考4-2】地域空港の国際線発着便数

	路線	週便数	運航状況
小松空港	台北	9	
	ソウル	7	
	上海	4	運休 (26/2-10月)
	香港	3	
	計	23	
富山空港	台北	4	運休 (20/3月-26/10月)
	ソウル	3	運休 (19/9月-)
	上海	3	運休 (25/12月-26/10月)
	大連	2	運休 (25/5月-26/10月)
	計	12	
高松空港	台北	7	
	台中	5	
	ソウル	14	
	釜山	3	
	香港	7	
	上海	4	
	計	40	
仙台空港	ソウル	7	
	大連	2	運休
	上海	2	運休
	台北	17	
	高雄	3	
	香港	4	
	バンコク	4	
	計	39	

(注) 臨時便の運航を除く。
 (出所) 各空港HP等